

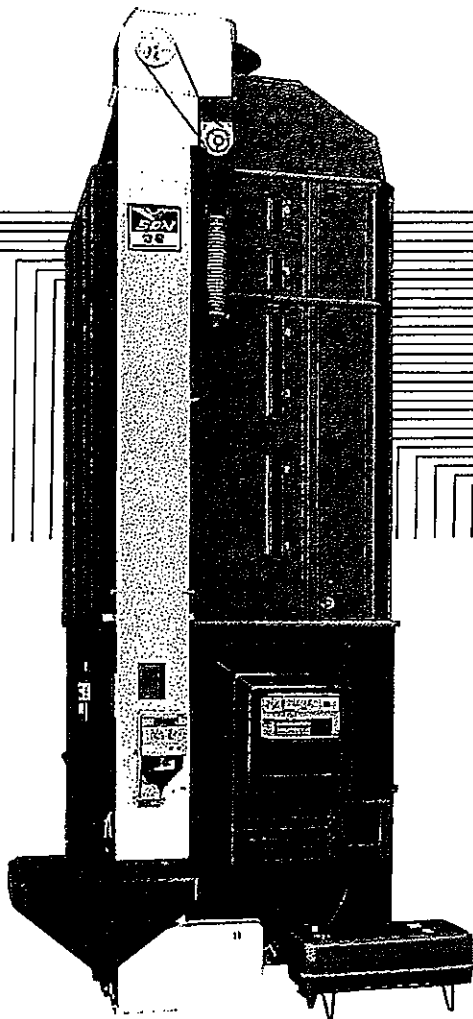
シヅカドライ ナイス

# SDN

24 C5  
28 C5  
32 C5  
36 C5  
40 C5

## 米麦用循環型乾燥機

### ■取扱説明書



#### 安全鑑定適合番号

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| ●SDN-24H 1320036 | ●SDN-24N 1320037 |
| ●SDN-28H 1320038 | ●SDN-28N 1320039 |
| ●SDN-32H 1220028 | ●SDN-32N 1220029 |
| ●SDN-36H 1220030 | ●SDN-36N 1220031 |
| ●SDN-40H 1220032 | ●SDN-40N 1220033 |

※安全鑑定番号の(H)は50Hz・(N)は60Hzを表わします。

## はじめに

この乾燥機は、少しでも使う人の負担を少なくするため取り扱いも簡単に、また故障も少ないように設計、製作されております。正しい取り扱い方で最高の性能を発揮して頂くため、この「取扱説明書」には、正しい使い方と注意事項がくわしく書いてあります。お使いになる前に必ずお読みください。

この乾燥機が最高の性能を発揮するためには、穀物の性状や作業環境が整っていることが条件になっています。

しかし、実際の作業条件は地域によって異なりますし、また、年によって穀物の出来、不出来もあります。どんな時にも良い仕上りの米、麦になるよう、この「取扱説明書」を良くお読み頂き、この機械の特性を生かして合理的な作業を行ってください。

なお、ご不明の点がございましたら、ご購入先または弊社の営業所か本社(営業部・営農推進課)にお問い合わせください。

本社	〒437	袋井市山名町4-1	☎袋井	井<0538>42-3114	FAX<0538>43-3547
札幌営業所	〒065	札幌市東区東苗穂4条3丁目4番12号	☎札幌	札幌<011>781-2234	FAX<011>781-1886
秋田営業所	〒010	秋田市泉登木101(田村ビル405号)	☎秋田	田<0188>23-9476	FAX<0188>65-1942
仙台営業所	〒989-61	古川市稲葉字亀ノ子50-1	☎古川	川<0229>23-7210	FAX<0229>24-1679
新潟営業所	〒950	新潟市姥ヶ山1丁目5番30号	☎新潟	潟<025>287-1110	FAX<025>287-1108
関東支店 (栃木S-C)	〒302	取手市桑原字桑原1424-1	☎電ヶ崎	崎<0297>73-3530	FAX<0297>73-3553
中部営業所	〒320	宇都宮市築瀬町62-3	☎宇都宮	宮<0286>37-3055	FAX<0286>35-5720
北陸営業所	〒437	袋井市高尾2630	☎袋井	井<0538>43-2251	FAX<0538>43-2250
新陰営業所	〒920-03	金沢市神野町10-1-1	☎金沢	沢<0762>49-6177	FAX<0762>49-6067
大阪営業所	〒561	豊中市名神口1丁目11番16号(洋岡ビル4階)	☎大阪	阪<06>862-5701	FAX<06>862-5988
広島営業所	〒731-01	広島市安佐南区八木2丁目18番11号	☎広島	島<082>873-5626	FAX<082>873-6447
四国営業所	〒765	善通寺市与北町644-4	☎善通寺	寺<0877>62-0724	FAX<0877>62-0806
九州営業所	〒830	久留米市野中町1332	☎久留米	米<0942>32-4495	FAX<0942>35-2434

# も く じ

	ページ
1. 主要諸元	2
2. 全体図と各部のなまえ	3
3. 運転前の準備と確認	4
●電気●燃料●送風機●設置場所●試運転	
4. 張込作業	8
5. 乾燥作業	10
6. 排出作業	13
7. 火災予防上の注意	14
●安全チェック	
8. 保守と点検	16
●手入れ箇所と手入れ法	
9. シーズン前の運転準備	19
●Vベルトの寸法と掛け方●ブーリー寸法●昇降機の点検	
10. 便利な別売部品(オプション)	22
11. 故障と対策	24
●O・Kシグナル点灯する場合 24ページ	
●点灯しない場合 25・26・27・28ページ	
12. 各部の接続と定格	29
●各中継コード●各モーター容量●ヒューズ定格●サーマルリレー設定値	
13. 据付寸法図	30
●機体寸法	
■修理・有料点検履歴控	31
●点検や修理の都度記入してください。	

# 1. 主要諸元

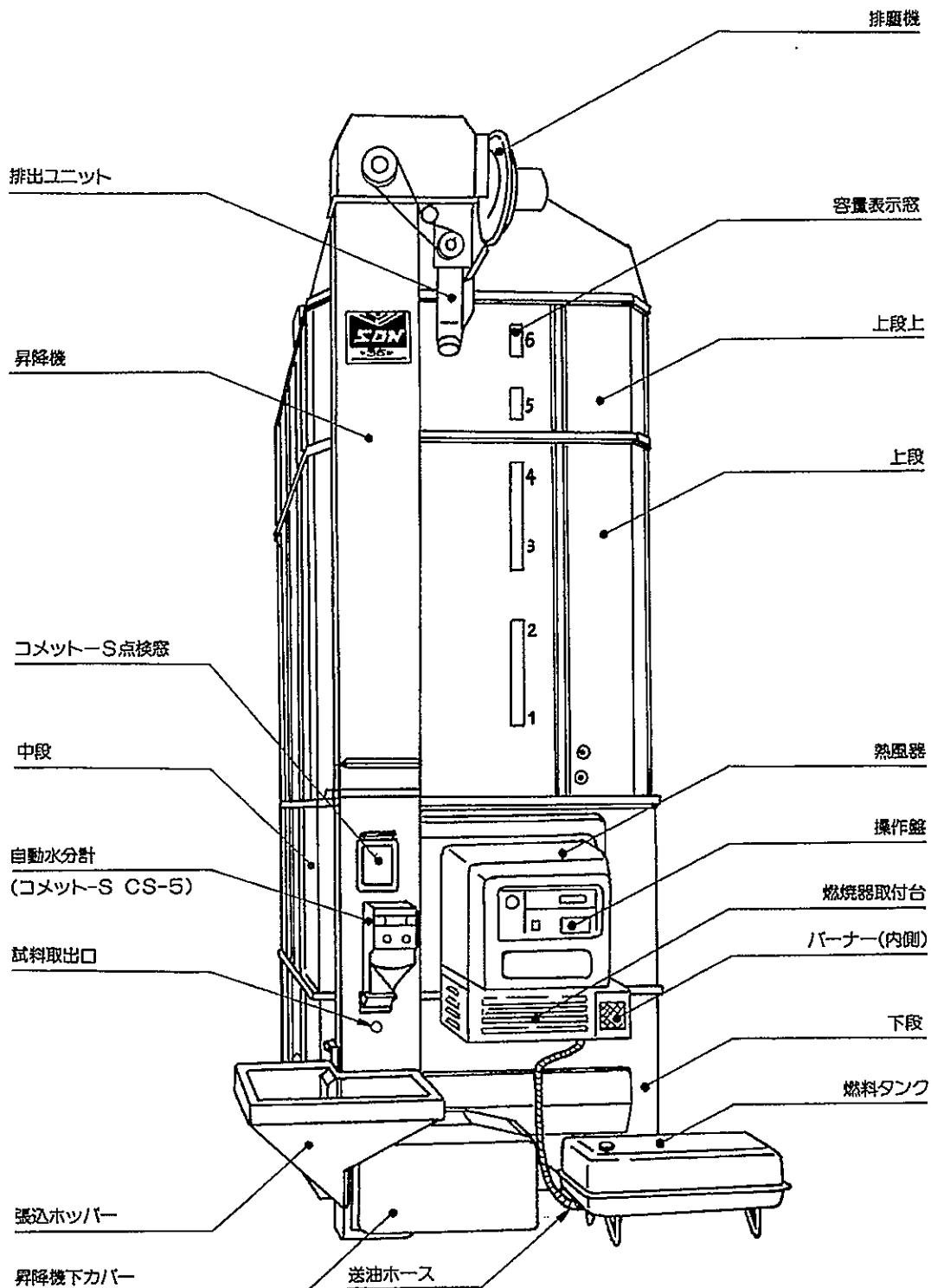
農業機械公正取引協議会規約による。

型 式	SDN-24C5	SDN-28C5	SDN-32C5	SDN-36C5	SDN-40C5	
区 分	-					
穀物の種類と処理量	粳(kg) 560kg/m <sup>3</sup>	粳:1,000~2,400	粳:1,000~2,800	粳:1,000~3,200	粳:1,000~3,600	粳:1,000~4,000
	小麦(kg) 680kg/m <sup>3</sup>	麦:1,220~2,930	麦:1,220~3,420	麦:1,220~3,910	麦:1,220~4,400	麦:1,220~4,400
機体寸法	全 長(mm)	3,140(昇降機を前に付けた場合) 3,160(昇降機を後に付けた場合)				
	全 幅(mm)	1,870				
	全 高(mm)	3,490	3,770	4,050	4,330	4,610
質 量 (重 量)(kg)	830	855	880	905	930	
送風機	型 式	FM-58DP				
	形 式	軸流式(吸引)				
	常用回転数(r.p.m)	1,720/1,420(60/50Hz)				
火 炉	型 式	SGB-6				
	形 式	ガンタイプ				
	点 火 方 式	自動放電点火				
	燃 焼 量 (ℓ/時)	0.3~5.5				
燃 料	使 用 燃 料	JIS 1号灯油				
	タンク容量(ℓ)	60				95
所 要 動 力	定 格 電 圧(V)	三相200V				
	循 環 (kW)	単相200V 0.12				
	送 風 機 (kW)	三相200V 0.65				
	搬 送 系 (kW)	三相200V 0.65				
	排 塵 機 (kW)	三相200V 0.14				
	水 分 計 (kW)	CS-5 単相200V 0.045				
	そ の 他 (kW)	単相200V 0.1				
	排 出 ス ロ ヲ ー (kW)	三相200V 0.75 (別売)				
	最大同時使用電力(kW)	1.76(別売スロワー使用時)				
性 能	張 込 時 間 (分)	粳 19 小麦 33	粳 22 小麦 38	粳 25 小麦 44	粳 28 小麦 49	粳 31 小麦 49
	排 出 時 間 (分)	粳 29 小麦 45	粳 33 小麦 51	粳 37 小麦 57	粳 42 小麦 65	粳 46 小麦 65
	毎時乾減率(%/時)	粳 0.6~1.0 小麦 0.7~1.2				粳 0.6~0.9 小麦 0.7~1.0
諸 装 置	安 全 装 置	●サーマルリリレー●サーモスタット●糞づまりセンサー●炎センサー●ヒューズ ●満量センサー●圧力スイッチ(バーナー部)●タイマー●風圧スイッチ●消火器				
	運 転 制 御 方 式	自動温度制御(サーミスター検知によるON-OFF制御)				
	そ の 他	標準装備品	自動水分計			
別売部品		●前張込装置(FF-60S)●排出スロワー(HH-60)●はんそう機 ●横張込ホッパー(YY-30)●自動給油装置●その他(P-22, 23ページ)				
安全鑑定適合番号		SDN-24:1320036	SDN-28:1320038	SDN-32:1220028	SDN-36:1220030	SDN-40:1220032
		SDN-24:1320037	SDN-28:1320039	SDN-32:1220029	SDN-36:1220031	SDN-40:1220033

※張込時間は粳水分24%、小麦水分30%のときのものです。 ※乾減率は小麦の場合30%のものを12.5%まで乾燥したときのものです。  
 ※排出時間は粳水分14.5%、小麦水分12.5%のときのものです。 ※電気契約は三相200V 2kW以上で行ってください。  
 ※乾減率は粳の場合24%のものを14%まで乾燥したときのものです。 ※安全鑑定適合番号の頂で、Hは50Hz、Nは60Hz用です。  
 ※SDN-40は麦乾燥の場合、満杯にはできません。

# 2. 全体図と各部のなまえ

図-1

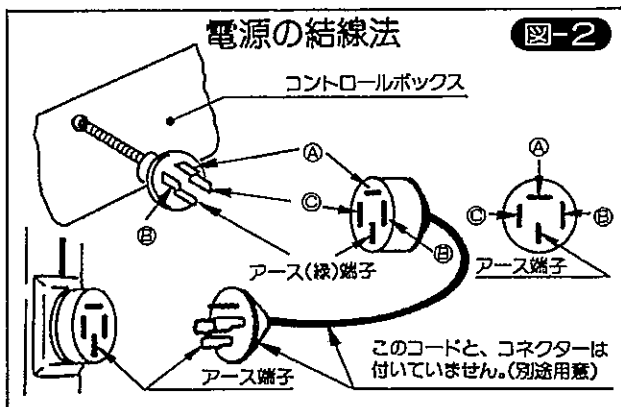


※昇降機は前・後どちらにも付きますが、図は昇降機を前に付けた場合です。

# 3. 運転前の準備と確認

## (1) 電気・燃料システムの点検

### ① 電源の結線法



\*オス型コネクタの③には赤線、②には黒線、①には白線が接続されています。  
\*延長コードは2.0mm<sup>2</sup>以上を使用してください。

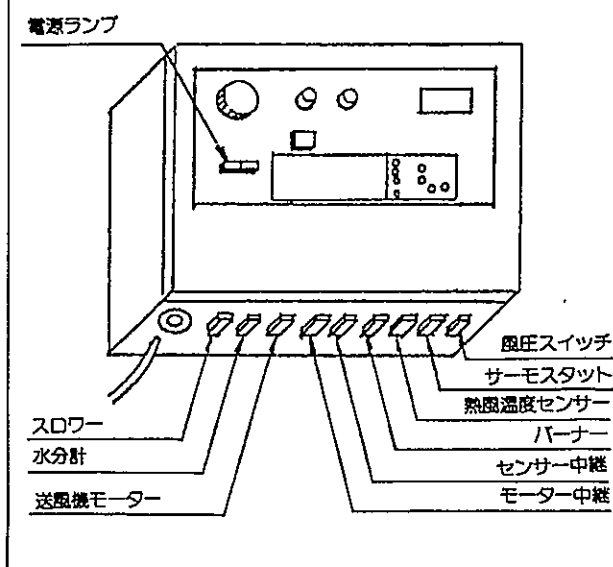
アースは必ずとってください。完全にアースがとれていないと誤動作の原因となります。

### ② 接続の確認

- ① 各差込プラグ・コネクタが、所定の場所にきちんと差し込まれていることを確かめてください。
- ② 電源コードを結線し、農舎内の電源スイッチを入れてください。

- 電源ランプの左右の明るさが違うときは、欠相又は接触不良が考えられますので、点検してください。
- 「O・Kシグナル」が点灯したときは24ページを参照して調べてください。

### 差込プラグ・コネクタの接続口

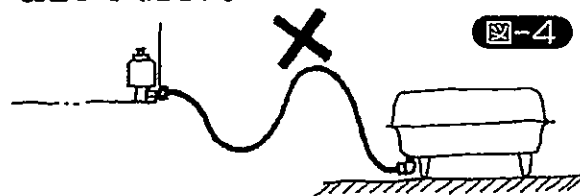


### ③ 運転確認は7ページ

### ④ 燃料の点検

■ 燃料タンクに給油後、電磁ポンプがエアアを吸い込まないようにエアア抜きをしてください。

- ① 接続ナットをゆるめ電磁ポンプより送油ホースをはずします。
- ② 燃料タンクのコックを開き、はずした送油ホースを燃料が接続口よりあふれ落ちるまで下げます。
- ③ 燃料タンクのコックを閉じ送油ホースを接続してください。
- ④ 送油ホースは山形にならないように、なめらかに配管してください。



はずしたホースの接続口に、ゴミ・ホコリがつかないように注意してください。万一ゴミ・ホコリがついた場合は、必ず灯油で洗浄してから接続してください。

- \* 燃料はJIS 1号灯油(白灯油)を使用し、乾燥途中で燃料切れのないようにしてください。燃料切れはポンプの空打ち等、故障の原因となります。ガソリン・軽油・不良灯油(変質灯油・不純灯油)は絶対に使用しないでください。異臭米、カーボン(すす)発生の原因となります。
- \* 燃料を補給する時は、必ず機械を停止させてから行ってください。

- 燃料は毎年新しいJIS 1号灯油(白灯油)を使用してください。昨年の灯油は使用しないでください。古い灯油へつぎたして使用すると水やゴミなどで失火等燃焼不良等の原因となります。
- 軽油等灯油以外の燃料を使用するとカーボン(すす)、異臭米の発生の原因となりますので絶対にさけてください。
- 標準タンク以外から配管する場合は必ず乾燥機1台につき1台ずつ自動給油装置(HL-20)をお使いください。(23ページ参照)

## (2)送風機(吸引)関係の点検

①排風ダクトを通す孔は充分大きく開けてください。

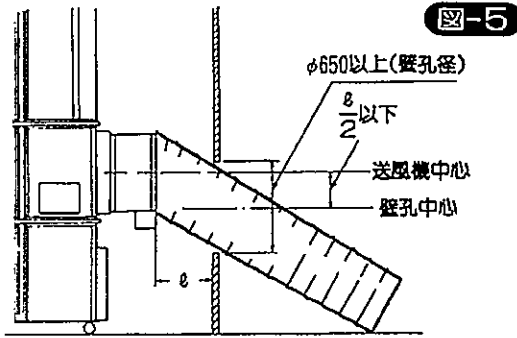


図-5

- 壁孔の大きさは余裕をとること(φ650以上)
- 中心の距離は必ず $\frac{\delta}{2}$ 以下にすること

②逆風がダクトに吹き込むような場合は、「風よけ」を作ってください。

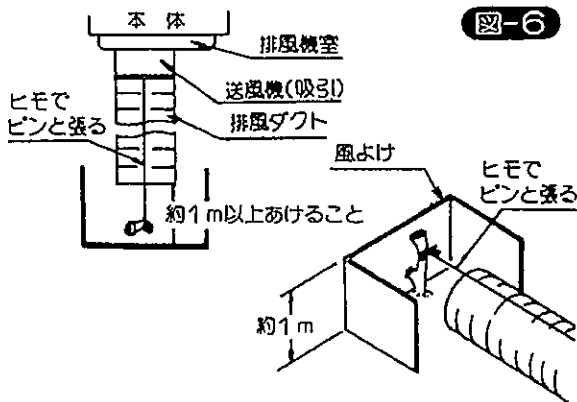
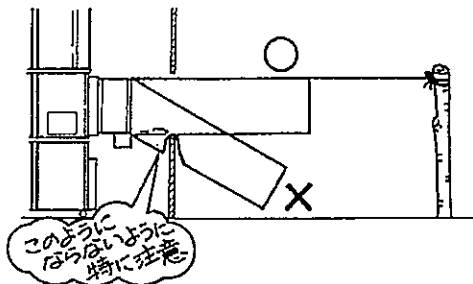


図-6



※ダクトは、まっすぐにし先端がパタパタしないようヒモで結んでください。

逆風の吹き込みや、ダクトの折れ曲りがあると、吸引風量が減り、乾燥性能の低下やカーボン発生の原因となりますので注意してください。  
又、風圧スイッチが働いて、点火できないことがあります。

③排塵筒が途中で折れ曲ると、ホコリが出がわるくなります。排塵筒は、斜め下向きにヒモでピンと張ってください。

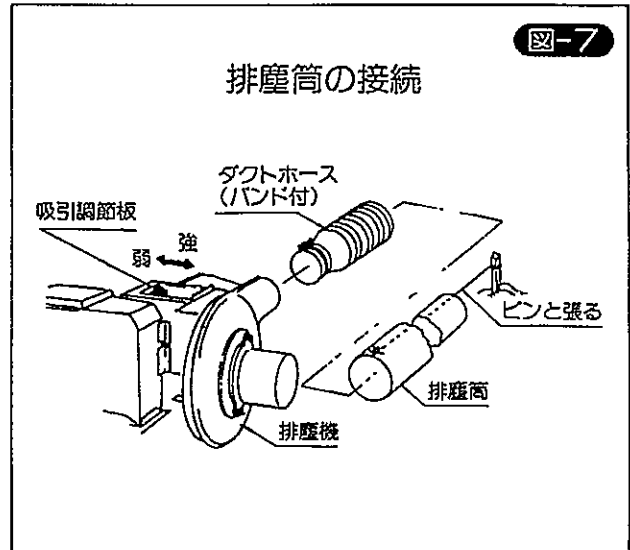
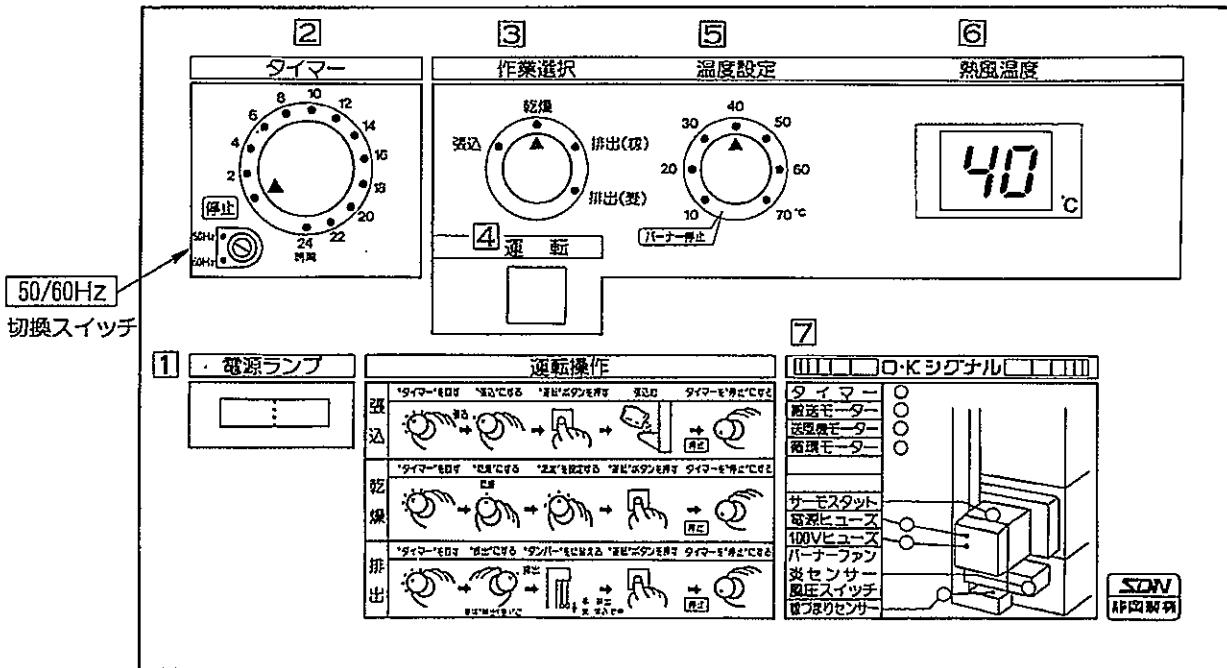


図-7

## (3)乾燥機設置場所の点検

- ①乾燥機は壁から最低30cm以上すき間をあけてください。
- ②外部からの風の吹き込みは、乾燥性能を悪くしますので、強い風の日には、直接乾燥機(特に熱風器側)に風が当たらないように窓を閉めるか、しゃ閉板をおいてください。
- ③乾燥機を複数並べて使用する場合は、乾燥機と乾燥機との間は、最低50cm以上あけてください。
- ④火災に関する設置場所の注意事項は、14ページの「火災予防上の注意」の項をご参照ください。



# 機能説明

## ①電源ランプ

電源を入れると点灯します。

## ②タイマー

50/60Hz切換スイッチは使用地域に合わせてあります。

## ③作業選択

作業内容によって選択をします。

- ①張込……………紐を乾燥機に入れる。
- ②乾燥……………紐を乾燥する場合。
- ③排出(綏)……高速排出。
- ④排出(麦)……中速排出。

## ④運転

乾燥機を起動させます。

## ⑤温度設定(乾燥運転)

乾燥温度の設定をする。

- 設定温度は11ページの温度表に従ってください。
- パーナー停止……通風乾燥になります。

(注)外気温度より低い値に設定しますと運転中に異常表示になります。(25ページ参照)

## ⑥熱風温度(乾燥運転)

乾燥機内温度を表示します。

## ⑦O・Kシグナル

乾燥機の状態をモニターします。(24ページ参照)

### ■ 作業選択 ツマミ操作上の注意

運転ボタンを押したあとで作業選択つまみをまわしますと、下の表のモーターがまわります。点検の際は十分注意してください。

運転ボタンを押したあとで、作業選択つまみをまわさないでください。

モーター 作業選択	搬送	排塵	循環	送風
張込	○	○	×	×
乾燥	○	○	○	○
排出(綏)	○	○	○	×
排出(麦)	○	○	○	×



# 試運転動作 (運転確認)

	手 順	確 認 事 項	チエック	処 置
準備	① 電源用プラグを差し込む	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電源ランプ点灯 (左右同じ明るさが正常)</li> <li>● 排出ダンパー切換ロープの <b>黒玉</b> を引く。</li> </ul>		
張込作業	① タイマーを右にまわす ② 作業選択ツマミを <b>張込</b> にする ③ <b>運転</b> ボタンを押す ④ タイマーを <b>停止</b> にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 搬送モーター・排塵機モーター作動 →昇降機で回転方向確認</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">モーター逆回転の場合</p> <p>昇降機平ベルト駆動用のモーターが逆転の場合は、電源を切ってから電源コードのコネクター部で、アース以外のどれか2線を入れ換えて直してください。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全停止</li> </ul>		
乾燥作業(1)	① タイマーを右にまわす ② 作業選択ツマミを <b>乾燥</b> にする ③ 温度設定ツマミを40℃にする ④ <b>運転</b> ボタンを押す ⑤ 温度設定ツマミを <b>バーナー停止</b> にする。 ⑥ タイマーを <b>停止</b> にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 搬送・循環・排塵機・送風機の名モーター作動</li> <li>● バーナー着火</li> </ul> <p>(穀物が入っていないときは温度が上がらなかつたり不安定の場合がありますが異常ではありません。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● バーナー消火</li> <li>● 全停止</li> </ul>		
乾燥作業(2)水分計使用	① タイマーを右にまわす ② 作業選択ツマミを <b>乾燥</b> にする ③ 温度設定ツマミを40℃にする ④ <b>運転</b> ボタンを押す ⑤ コメット-Sの電源を入れる ⑥ 電極が5回往復動作するのを確認 ⑦ 5回測定が終ると火が消える ⑧ 5分後に本機が停止することを確認 ⑨ 水分測定精度をチェックする。 ⑩ タイマーを <b>停止</b> にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 搬送・循環・排塵機・送風機の名モーター作動</li> <li>● バーナー着火</li> </ul> <p>(穀物が入っていないときは温度が上がらなかつたり不安定の場合がありますが異常ではありません。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「電源」と「自動」の赤ランプ点灯</li> <li>● 空運転のため「L」を表示します。(詳細は別冊「自動水分計取扱説明書」を参照)</li> <li>● 測定終了と同時に消火する。</li> <li>● 自動ランプが消える。</li> <li>● 「コメットパック」で水分測定精度をチェックする。</li> <li>● 全停止</li> </ul>		
排出作業	① タイマーを右にまわす ② 作業選択ツマミを <b>排出</b> にする ③ <b>運転</b> ボタンを押す ④ タイマーを <b>停止</b> にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 搬送・循環・排塵機の名モーター作動</li> <li>● 排出スロースイッチ「ON」でスロワー作動確認(右回転が正常)</li> <li>● 全停止</li> </ul>		

※毎年お使いになる前にこの手順で確認してください。

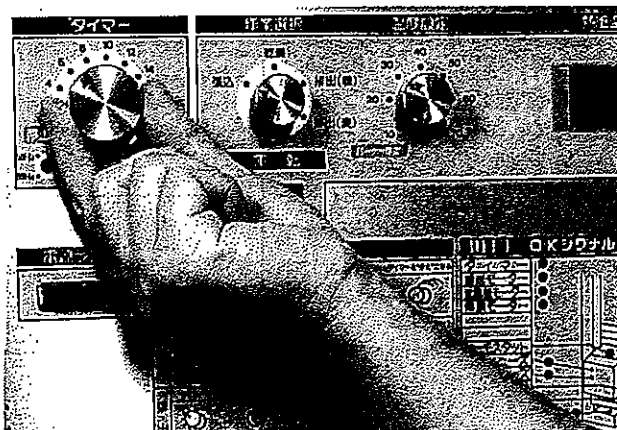
# 4. 張込作業

(排出ダンパー切換ロープ[黒玉]を引いてダンパーを閉にする。)

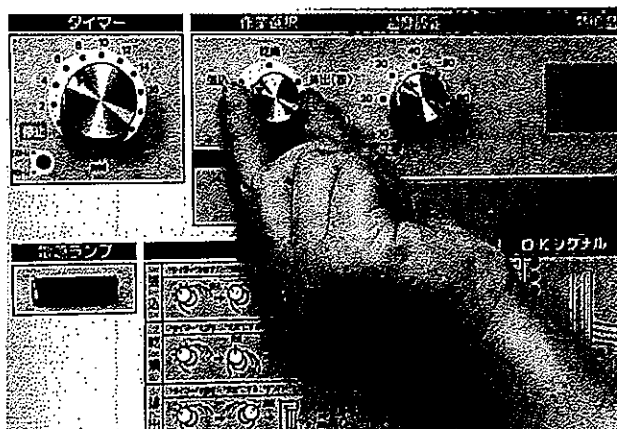
## (1) 運転操作

① **タイマー** をまわす。

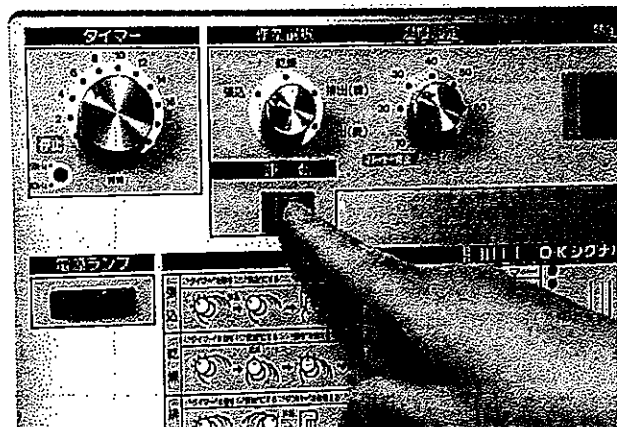
2時間以内の場合は、一度それ以上まわしてから戻してください。



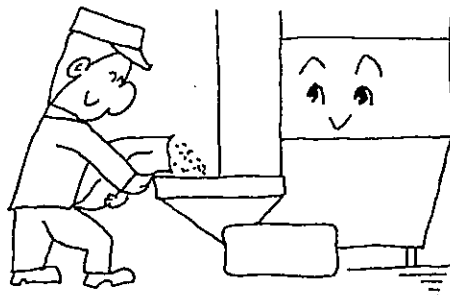
② **張込** にする。



③ **運転** ボタンを押す。



④ 張り込む。



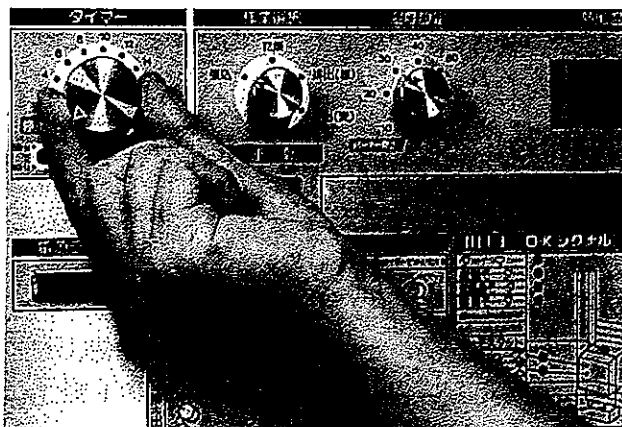
標準張込量—コンバイン袋数(綑)

型 式	SDN-24	SDN-28	SDN-32	SDN-36	SDN-40
最少袋数	32	32	32	32	32
最高袋数	75	88	100	113	125

(コンバイン袋数は1袋約32kgで計算してあります。)  
選別の程度や水分の多い少いにより10%程度変わります。

水分16%以下の麦は7割以下の張り込みで乾燥してください。

⑤ タイマーを **停止** にする。



■タイマーをまわして5~10秒後に運転ボタンを押してください。タイマーをまわした直後に運転ボタンを押すと、ブザーが鳴ることがあります。ブザーが鳴ったら一度タイマーを切って再運転してください。

## (2)確認と注意

■満量になるとブザーが鳴りますので張り込みを停止してください。

ブザーが鳴っても自動停止はしません。

■高水分穀(麦)や選別の悪い穀(麦)の場合は、標準袋数まで入らないことがあります。

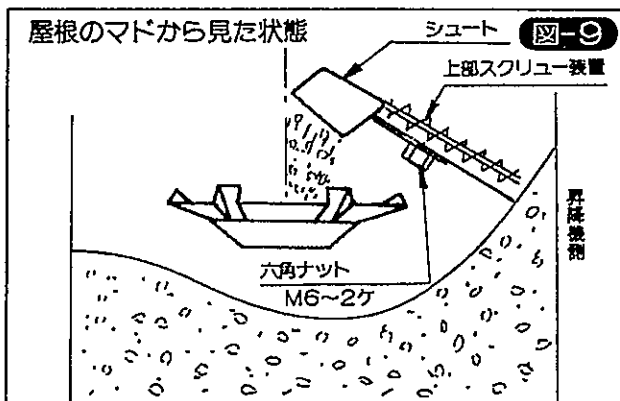
### ■張込状態の調整

①昇降機側が極端に高くなる場合

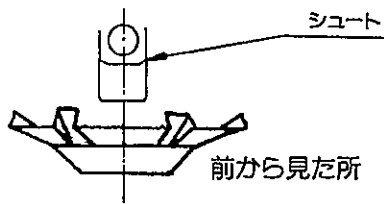
屋根のマドから六角ナットをゆるめてシュートを昇降機側に寄せて固定する。

②昇降機の反対側が高くなる場合

昇降機の反対側にシュートを寄せて固定する。



左右の分散に対しても同様ですので固定時には十分に注意してください。



シュートが分散装置の中心になるようにしてください。

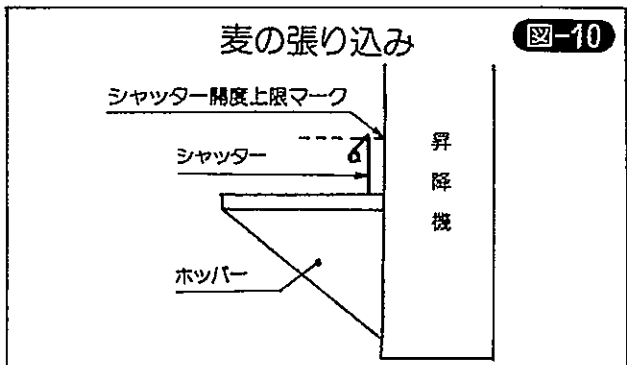
■穀(麦)の性状により分散状態が変わることがあります。

規定の袋数を張り込む前に、満量センサーが働く場合は、センサーを上方に、又、規定の袋数を張り込んで満量センサーが働かない場合は、センサーを下方に移動してください。

■コンバイン袋で2~3袋入りきらなかった場合には、乾燥開始後、量が減ってから追加張り込みしてください。1時間以内ならば乾燥ムラになりません。

■麦の張り込みは、「シャッター開度上限」マークより下で行ってください。

開け過ぎると詰る場合がありますので注意してください。



■張り込み過ぎにより、搬送モーター用サーマルリレー(モーター過負荷保護装置)が作動した場合は、分散装置(円盤)上の穀物を取り除いてから、サーマルリレーの復帰レバーを押し、2~3袋排出してください。

### (注意)

極端な高水分(30%以上)の場合や穀物の表面がぬれている場合には1~2の窓の張り込みとし、1~2時間通風乾燥を行い、それから後で加温してください。(はりつき防止)

# 5. 乾燥作業

(1) 運転操作 (燃料タンクの灯油の量を確認してください。)

■燃料タンクのコックを「開」にしてください。

1 **タイマー** をまわす。



## ■タイマー設定時間の計算

乾燥前の水分から目標とする仕上り水分を引き、それを0.9で割ってください。

$$\text{設定時間} = \frac{\text{乾燥前水分} - \text{仕上り水分}}{0.9}$$

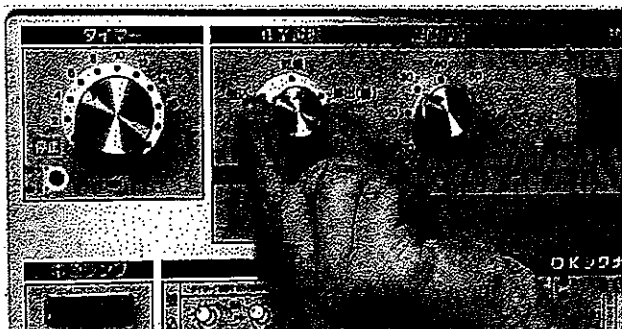
(例) 乾燥前の水分が24%、仕上り水分15%の場合

$$\text{設定時間} = \frac{24 - 15}{0.9} = 10 \text{時間となる。}$$

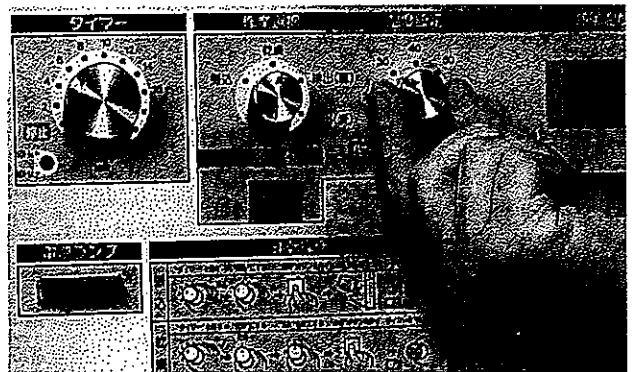
- 自動水分計コメットーSを使用する場合は、これより1~2時間ながめに設定してください。
- 追加乾燥時は、1時間当りの乾減率を0.5%位で計算してください。
- 2時間以内に設定する場合は、一度それ以上まわしてから戻して合わせてください。

2 **乾燥** にする。

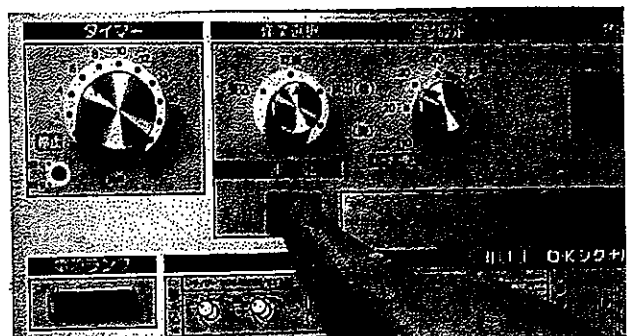
通風乾燥のときは、**バーナー停止** にする。



3 **温度** を設定する。



4 **運転** ボタンを押す。(約1秒)



- 一度で点火しなかった場合  
タイマーを停止にし、もう一度①~④を繰り返してください。
- タイマーをまわして5~10秒後に運転ボタンを押してください。タイマーをまわした直後に運転ボタンを押すと、圧力スイッチが作動することがあります。
- 運転ボタンは熱風温度の表示が出るまで(約1秒)押してください。
- 乾燥運転中は、バーナーが自動的についたり消えたりして温度調節をします。ついている時間と消えている時間は設定温度によって変わります。
- 点火不調で「炎センサー」の点灯を繰り返した場合は、バーナーを点検してください。再運転前に、燃焼室内の灯油を必ずふき取ってください。

■ 籾乾燥の温度表

表-1

窓位置 周囲温度	熱風温度(℃)							
	①の窓	②の窓	③の窓	④の窓	⑤の窓	⑥の窓	⑦の窓	
				24石満量	28石満量	32石満量	36石満量	40石満量
30℃以上	32~38	36~42	40~46	44~50	48~54	52~58	52~58	52~58
25℃	29~35	33~39	37~43	41~47	45~51	49~55	51~57	52~58
20℃	27~33	31~37	35~41	39~45	43~49	47~53	49~55	52~58
15℃	24~30	28~34	32~38	36~42	40~46	44~50	46~52	50~56
10℃	22~28	26~32	30~36	34~40	38~44	42~48	44~50	48~54
5℃以下	19~25	23~29	27~33	31~37	35~41	39~45	41~47	45~51

注1

●温度表には、巾をもたせてありますので、初回は低めで乾燥し、ようすをみながら徐々に高めて使用してください。  
極早生、早生種、早期米、過熟米(刈取遅れ)や、脱ぶ米が多量に混入した場合等は胴割れしやすいので注意してください。(4~5℃低めとする)

注2

●雨降りや夜間運転の場合は空気が湿っていて乾燥効率が悪くなりますから、外気が直接流入してくるような場所(軒先等)での乾燥は、温度表より更に2~3℃高めの温度で乾燥してください。ただし、異常乾燥時は除きます。

表-2

胴割れしやすい品種		
アキヒカリ	キヨニシキ	ニホンマサリ
アキユタカ	コチヒビキ	はつかおり
碧風	ササミノリ	フジミノリ
イシカリ	サトホナミ	ホウネンワセ
オオセト	ともゆたか	
カツラワセ	トヨニシキ	など

5) コメット-S の設定をする。

(詳細は別冊「自動水分計取扱説明書」をごらんください。)

**操作** 穀物選択ツマミを設定する

↓  
穀物選択は3つに分かれています。  
どれかに正しく設定してください。

**操作** 停止水分(%)ツマミを設定する

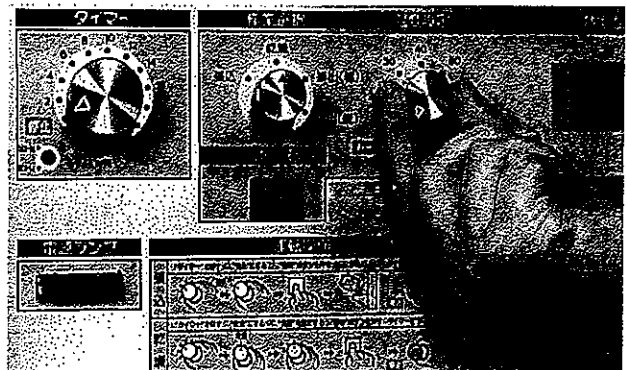
↓  
設定は12.0~16.5%の0.5%きざみです。  
他に2段乾燥用(18%)があります。

**操作** 電源スイッチを入れる

乾燥途中で電源を切らないでください。  
いままでの記憶が失われてしまいます。

6) 乾燥途中の停止(手動停止)

温度設定を **バーナー停止** にして、2~3分後タイマーを **停止** にする。



- 乾燥中は、各点検窓フタ、掃除口は閉じてください。バーナーが異常燃焼し、大変危険です。
- バーナー底板は熱くなることがあります。危険ですからさわらないでください。

☑乾燥終了(水分計設定水分(%))又はタイマーが切れると乾燥機は自動的に停止する。

**1 乾燥機のタイマーは?**

タイマーで止っていることもありますから必ず確かめてください。

(タイマーの残り時間を見ておくと、次回のタイマーセットに役立ちます。)

**2 水分表示は設定と同じか?**

途中で乾燥機のみ停止させると、平均値ではなく、停止水分(%)と同じ値を表示します。  
故障の場合は点滅表示となります。

**3 確かに仕上がってますか?**

乾燥機の試料取出口などから取った試料を機外測定で確かめてください。

籾は必ず付属の籾すり器を使って玄米にして測ってください。

**4 コメットーSの電源スイッチを切る**

スイッチを切り忘れると次回の乾燥のとき乾燥機の点火ができません。

**■酒米乾燥**

搗精歩留りが問題になりますので、それぞれ地域の指導機関のご指導によって行ってください。

**■種籾・種麦乾燥**

発芽率が特に問題になりますので、それぞれ地域の指導機関のご指導によって行ってください。

**麦の乾燥**

**■小麦乾燥**

小麦乾燥で注意が必要なことは小麦のネバリのもとであるグルテン含有率を下げないようにしなければなりません。60℃以下で乾燥してください。

**■麦の再乾燥(仕上げ乾燥)**

水分16%以下の麦の再乾燥(仕上げ乾燥)を行う場合は7割以下の張込量としてください。

**■ビール麦乾燥**

あまり高温で乾燥すると発芽率、発芽勢が下がります。45℃以下で乾燥してください。

水分30%以上の退色等の品質低下を招くおそれのある高水分麦を乾燥する場合は、水分18~23%位までは40℃以下の温度で乾燥してください。

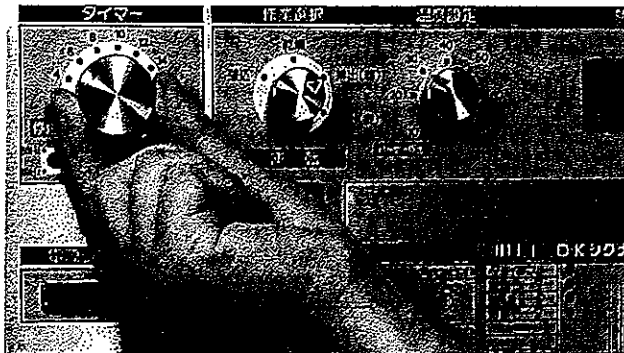
ただし、発育不良等の小麦の場合は、以上の様な乾燥操作をしても品質低下を防止できないことがあります。又、その年により乾燥方法を変える必要が生じる場合もありますので詳細についてはそれぞれの地域の指導機関等にご相談ください。

# 7. 排出作業

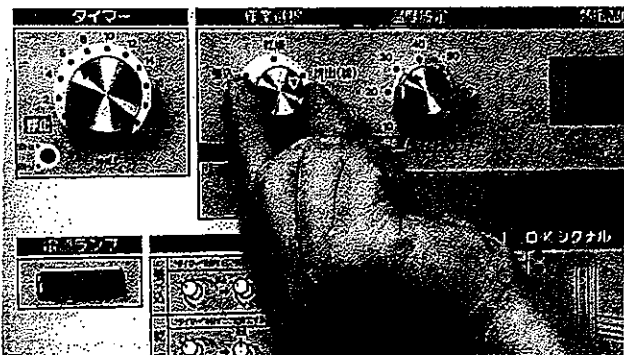
(排出の前には、必ず水分を確認してください。〈籾の場合は玄米で〉)

## (1) 運転操作

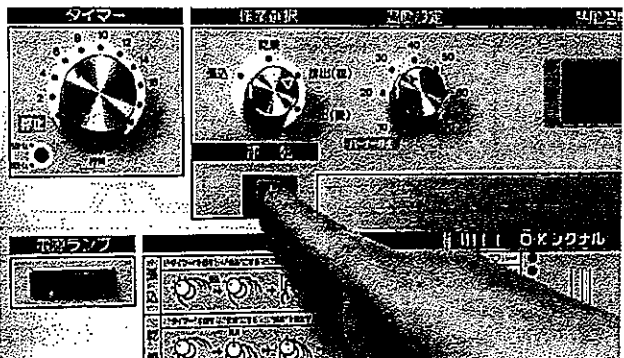
① タイマーをまわす。



② 排出(籾) 又は、 排出(麦) にする。

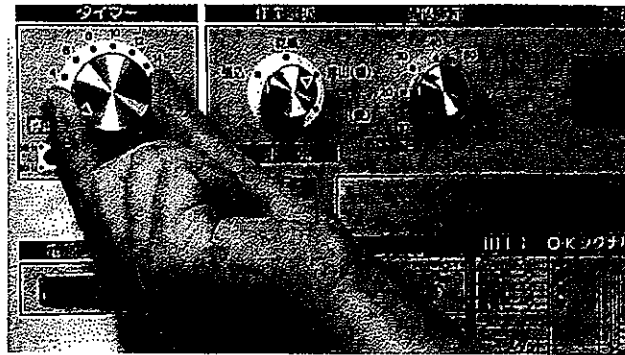


③ 運転 ボタンを押す。



④ 排出ダンパー切換ロープの 赤玉 を引く。

⑤ 排出後タイマーを 停止 にする。



⑥ 排出ダンパー切換ロープの 黒玉 を引く。

### ■スロワー排出の場合

- スロワー起動ボタンを押してスロワーを先に回転させてから排出ダンパー切換ロープの 赤玉 を引いてください。
- 途中で止めるときは、先に 黒玉 を引いて排出がなくなってから停止してください。

スロワーが詰まると、セーフティカットが作動し、スイッチが切れます。電源を切って掃除をしてください。

セーフティカットが一度作動すると、すぐにはスイッチが入りません。少し時間がたって(10~15分)から再度スイッチを入れてください。

### ■排出を途中で停止する場合

- 排出途中でダンパーを閉じると穀物がダンパーの間に入りスキマができ、そこからもれることがあります。この時は、ダンパーを閉じてからタイマーで停止させた後、ダンパーの開閉を行ってください。

## (2) 確認と注意

- 籾すり作業は乾燥終了後1時間以上過ぎてから行ってください。

### ■籾すり前と出荷前の水分確認

籾すりや出荷までの期間が長い場合は、出荷前に水分の確認を行ってください。

特に麦は梅雨期を経てからの出荷となりますので注意してください。

# 8. 火災予防上の注意

① **図-11**

■燃えやすいものを、乾燥機の近くに置かないでください。

壁から1 m以上離す

④ **図-14**

■燃料はドラム缶より直接とらないでください。消防法で禁止されています。

② **図-12**

■燃烧器側は壁面より最低1 m以上の距離を設け、かつ熱風器上方に可燃物がないようにしてください。運転中、燃烧器部へ可燃物が飛び込まないように注意してください。危険範囲内に燃えやすいものをおかないでください。

1.5m

1m

上段

中段

下段

熱風器

危険範囲

⑤ **図-15**

■燃料タンクは必ず下段と同じ位置に置いてください。タンクの油面がポンプより高いと圧力が掛かって、ポンプが止っても油が流れて危険です。

③ **図-13**

■送油パイプ、ホース接続部(ニップル)よりの油もれのないようにしてください。配管後、タンクを動かすとゆるみの原因になりますので注意してください。

〈注〉無人運転を避け、ときどき運転状態を確認してください。

⑥ **図-16**

■標準タンク以外からの直接の配管は絶対にやめてください。ポンプ流量が変わって、燃烧が不安定になります。専用部品(HL-20)をお使いください。(23ページ参照)

⑦

■燃料は新しい良質のJIS 1号灯油(白灯油)を使用してください。昨年の灯油は使用しないでください。

■年1回、乾燥前後に燃烧器の掃除をしてください。(21ページ参照)

燃烧器にカーボン(すす)が付着しますと、着火不良、炎センサーが誤動作し失火の原因になります。



# 安全チェック

**据付場所**  
 近くは置かないけど、この床、耐えられるかな？  
 水平で、コンクリートがいいね。

50cm以上離します。  
 50cm以上  
 壁

1m  
 トタンなど燃えやすいもの。

2層などで屋根がでているときは、カバーをしてネ  
 危険

ダンボール箱など

このことは、必ず！

**点火順序**  
 点火の順序をまちがわないで、正常にももててるか確認してネ！

**燃料補給**  
 燃料補給は、バーブの火を消してから。

**無人運転**  
 乾燥機を無人運転にするときは、必ず安全装置を手チェックしてネ！

**消火器**  
 乾燥機の近くには、必ず消火器を！

**排風ダクト**  
 排風ダクトは、所定の長さで使用し、極端に曲げないで！  
 曲げる場合は、所定の曲り管を使用してネ！  
 ダクトはまっすぐでネ！

**温度上昇**  
 急に温度を上げようとして、油を出し過ぎないように。温度制御は正常かな？

**消火**  
 手動停止は、消火後10分間、燃焼し、消火確認、必ずネ！

**燃料タンク**  
 燃料タンクの水道は必ずシャワーに接続し、忘れずにネ！  
 燃料タンクは、標準装備のもの。それ以外は、自動給油装置を使う。

**電気系統**  
 運転前に配電盤、モーターコード線の損傷と回転方向及び電圧を手チェックして電圧を入れること！

**電源コード**  
 長さや容量に注意、所定動力に耐えられる電源コードを使ってネ。  
 正しいアースも、必ずつけないでネ！

**白灯油**  
 良質な灯油だけ使って。こぼれたら危険！すぐふきとること！  
 OK  
 JIS1号

**事前点検**  
 シーズン前に点検をして、有償点検がベストだよ！

# 9. 保守と点検



機械を長もちさせるために乾燥が終わりましたら、次の様な順序で手入れをしてください。

※そのおりに必ず電源コードをはずしておきましょう!!

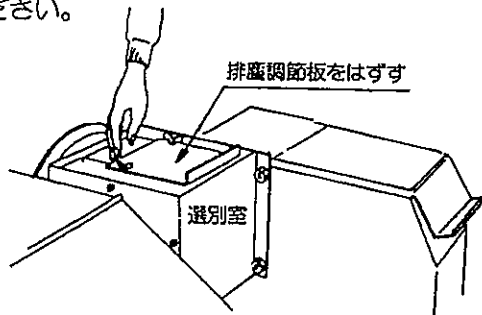
## — 手入れ箇所と手入れ法 —

■ 手入れは乾燥機の上の方から順番に行います。

①

図-17

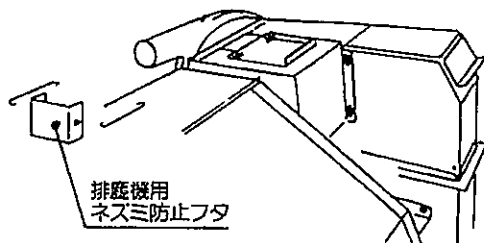
排塵調節板をはずし、排塵機選別室の内部を掃除してください。



②

図-18

排塵機のダクトホース(ジャバラ)をはずし、ネズミ防止フタを取り付けてください。(ネズミ対策)



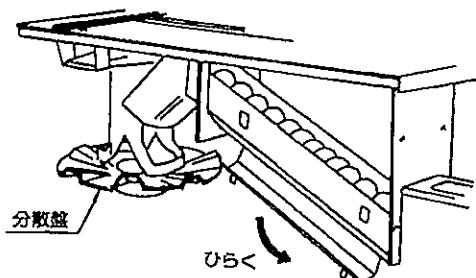
③

図-19

屋根の窓から乾燥機内部に入り、上部スクリーン樋の底を掃除してください。

上部スクリーン樋の底板は、止金具をはずせば下方に開きます。

分散盤に残っているワラくずや穀粒を落してください。

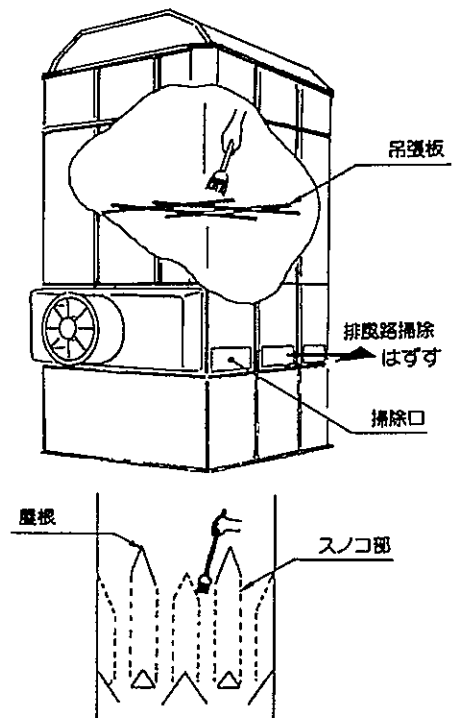


④

図-20

乾燥機内部の吊張板、スノコ部、乾燥部、屋根等のワラくずや穀粒を落してください。

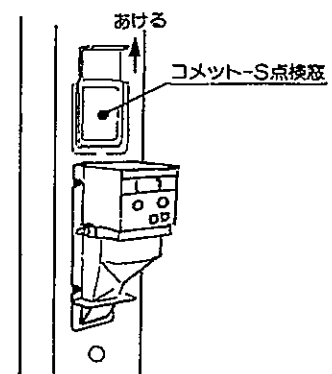
乾燥機外へ出て、中段側面にある排風路の掃除口(左右で6ヶ)をはずし、ゴミを落してください。



⑤

図-21

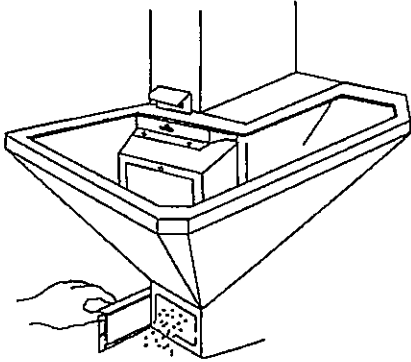
コメット-S点検窓を開け、ワラくずなどをとってください。



⑥

図-22

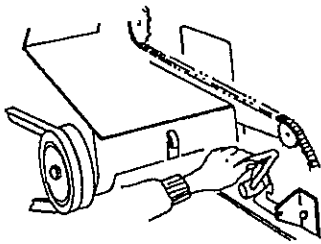
昇降機下部の掃除をしてください。



⑦

図-23

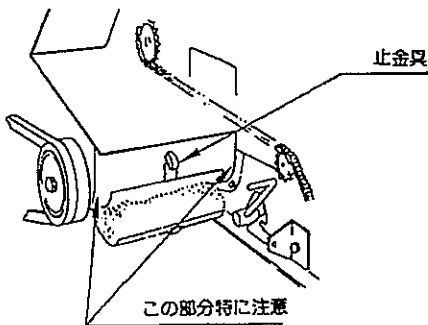
残穀処理レバーの金具をはずし、上下に2~3回動かしてください。



⑧

図-24

流穀筒の止金具をはずし、スクリーン下部の残穀をかき出してください。



⑨

各掃除口を開けたまま、電源を接続し、**排出**の操作をして2~3分運転してください。

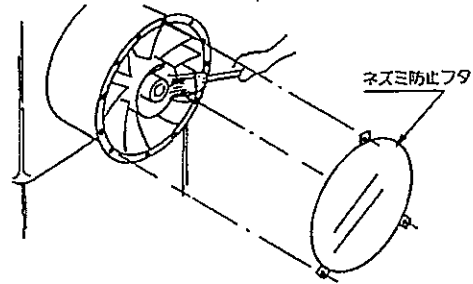
⑩

図-25

排風ダクトをはずし、ネズミにかじられない別の所へ保管してください。

送風機の掃除をしてください。特に回転翼ボス内のホコリを取り除いてください。

送風機にネズミ防止フタを取り付けてください。  
(ネズミ対策)



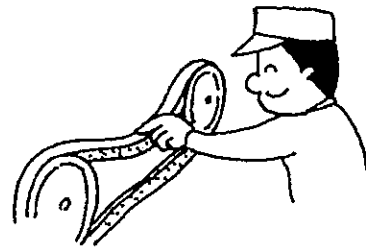
⑪

燃焼器の掃除をしてください。(21ページ参照)  
(年1回程度)

⑫

図-26

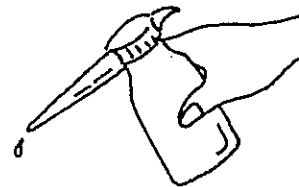
昇降機の平ベルトや各部のVベルトはテンションパネをはずしてゆるめておいてください。  
切れそうなベルトは早めに交換してください。



⑬

図-27

チェーンやスプロケットの点検、掃除。軸の部分へ注油をしてください。



(注)注油が多過ぎてベルトに掛からないように。

⑭ **図-28**

掃除が終わったら、張込ホッパーのシャッター及び各掃除口は元通りに閉めてください。

フッフッフ あいてるぞ

⑮ **図-29**

送油ホースを燃料タンクからはずした場合は、先端を覆って、電磁ポンプより高い位置に保管してください。はずした時、ホース内にホコリやゴミが入りますと、ポンプがつまり失火の原因となります。

⑯ **図-30**

中排風路の掃除

掃除は、送風機を右側にずらし、ホウキなどを用いて行います。

掃除手順

1. 送風機固定ボルトをはずす。
2. ①のナットをゆるめ、②のボルトをはずす。
3. 送風機を右へずらし③④の所へはずしたボルトをはめる。
4. ホウキなどでゴミをかき出す。
5. 掃除が終わったら、元通りしめておく。

排風路掃除手順      中排風路掃除

⑰ **図-31**

昇降機バケットが摩耗すると揚穀量が減り昇降機の一つりの原因となります。摩耗したバケットは交換してください。

交換の目安      バケット

20ミリ

この厚い部分が半分減ったら交換してください。

⑱ **図-32**

水分計の試料取出皿が試料スプーンの下に戻っているか確認してください。戻っていない場合は電源を入れて作動して正規の位置(スプーンの下)にしてください。

試料スプーン

試料取出皿

⑲ **図-33**

電源コードは元からはずしておいてください。電源を入れたままですと、雷などの影響で制御装置が損傷することがあります。

# 10. シーズン前の運転準備



毎年乾燥作業前には必ず点検をしましょう。

## (1) 本機の点検

- ① 各部の締め付けと回転部の点検をしてください。
- ② Vベルトの張り具合はスプリングテンション調節板またはテンションプーリーの移動で行います。

### Vベルトの寸法と掛け方

番号	名称	寸法
①	下部スクリーン駆動Vベルト	LA(SA)-39/50Hz LA(SA)-38/60Hz
②	昇降機駆動Vベルト	LA(SA)-51
③	上部スクリーン駆動Vベルト	LA(SA)-55

番号	名称	寸法	
		50Hz	60Hz
①	搬送モータープーリー	φ 83 975r.p.m.	φ 70 1170r.p.m.
②	下部スクリーンプーリー(前)	φ 144 430r.p.m.	
③	テンションプーリー(平)	φ 46	
④	昇降機駆動プーリー	φ 163.5 380r.p.m.	
⑤	下部スクリーンプーリー(後)	φ 183.5 430r.p.m.	
⑥	昇降機プーリー(上)	φ 186	
⑦	上部スクリーンプーリー	φ 120 596r.p.m.	
⑧	テンションプーリーC(V溝)	φ 69	

### プーリー寸法

図-34

番号	名称	寸法	
		50Hz	60Hz
①	搬送モータープーリー	φ 83 975r.p.m.	φ 70 1170r.p.m.
②	下部スクリーンプーリー(前)	φ 144 430r.p.m.	
③	テンションプーリー(平)	φ 46	
④	昇降機駆動プーリー	φ 163.5 380r.p.m.	
⑤	下部スクリーンプーリー(後)	φ 183.5 430r.p.m.	
⑥	昇降機プーリー(上)	φ 186	
⑦	上部スクリーンプーリー	φ 120 596r.p.m.	
⑧	テンションプーリーC(V溝)	φ 69	

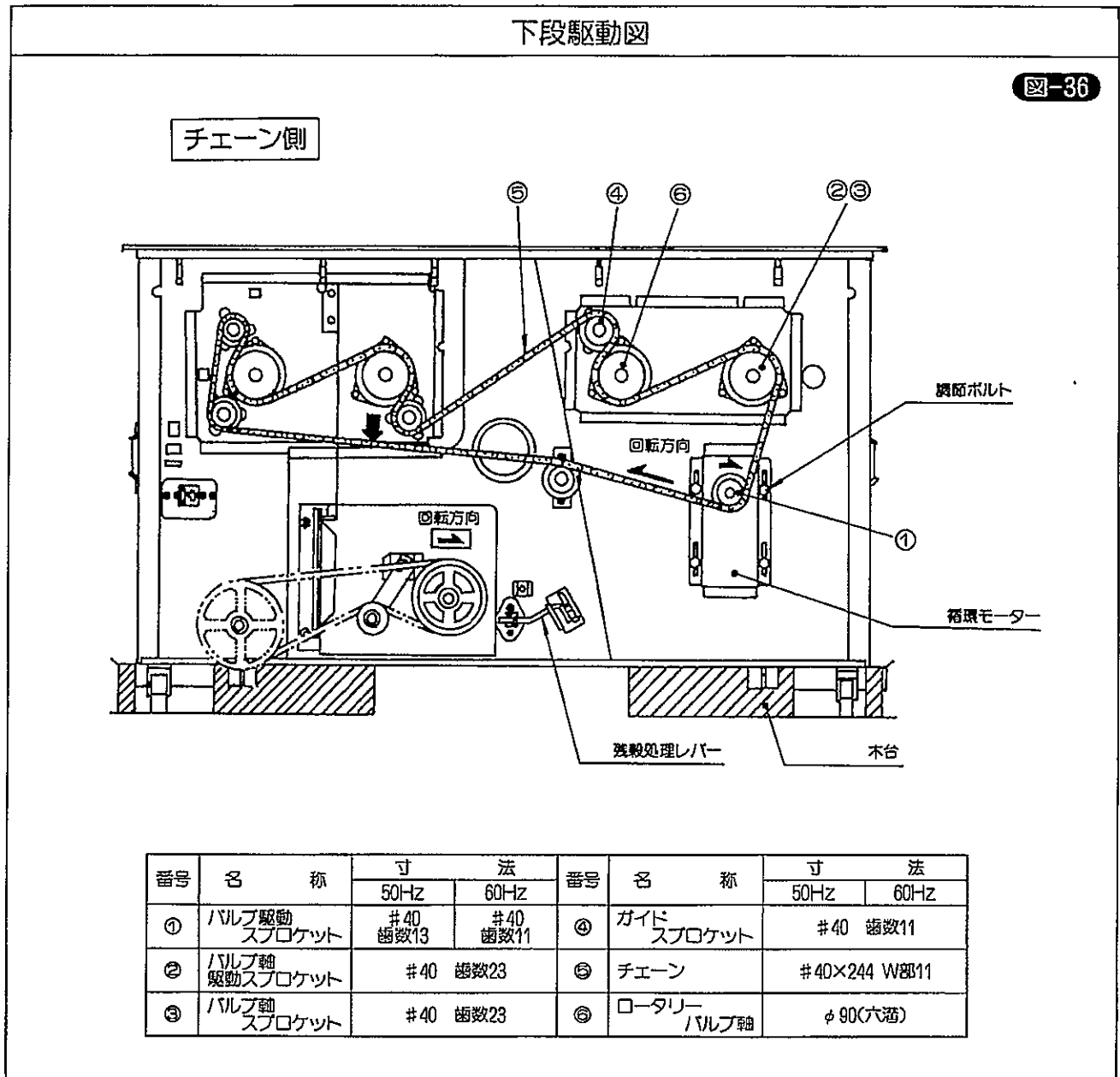
- ③ Vベルトの掛け方、張りを確かめてください。張り具合はVベルトの真中を指で軽く押して10~15mmへこの程度が適正です。(右図参照)
- ④ 乾燥機内部に工具やボルト・ナットが落ちていないか確かめてください。

### Vベルトの張り

指で押えて10~15mmへこの程度が適正。

図-35

⑤チェーンの調節は、循環モーターのボルトをゆるめて行います。あまり張り過ぎないように下図↓印のところを指で押えて約10mm位へこむ程度です。

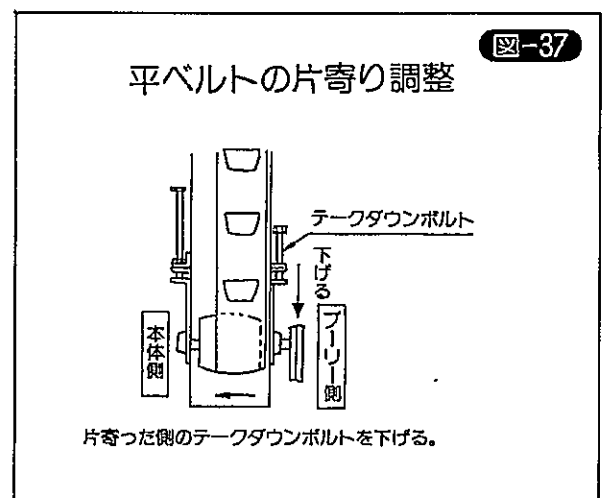


## (2)昇降機の点検

①平ベルトの張りは、昇降機の下部で行ってください。  
上部は片寄りの微調整のみです。

②平ベルトがゆるんだときは次の順序で調整してください。

- 1.六角ナット(M10)をゆるめる。
- 2.左右のテークダウンボルトで張りを調整する。
- 3.昇降機を運転し、平ベルトの片寄りを確認する。
- 4.平ベルトが片寄った場合は、片寄った側のテーク  
ダウンボルトを右へまわせば直ります。
- 5.六角ナット(M10)を締め付ける。

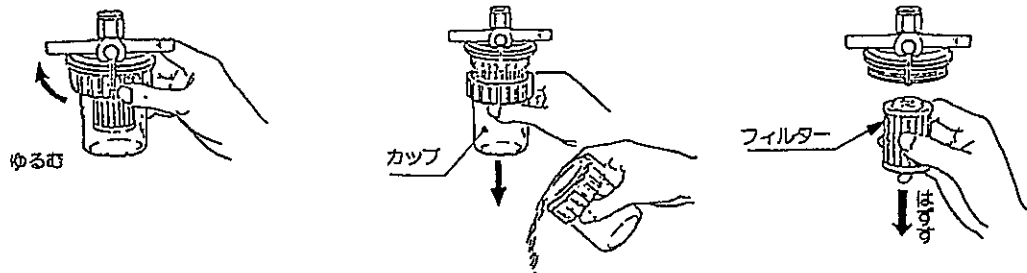


### (3) 燃焼関係の点検と掃除

#### ■燃料タンクコックの点検

燃料系統不調の場合はフィルターの目づまりによる場合が多くみられます。フィルターはコック内にあります。

図-38



ゆるむ  
締付リングをゆるめ、  
カップをはずす。

カップ  
カップの中の灯油を  
捨て中を掃除する。

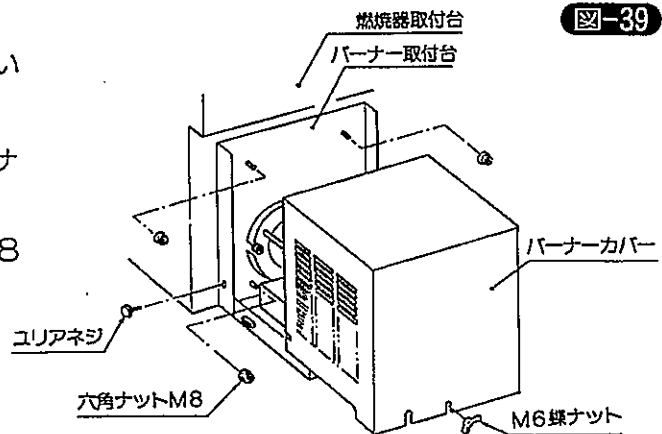
フィルター  
フィルターを灯油で洗う。  
掃除してください。

#### — 火炉(バーナー)分解手順 —

図-39

1年に1回バーナーを点検してカーボン(すす)が着いていたら掃除してください。

- ① 燃焼器取付台のバーナーカバーをはずす。(M6蝶ナット×1 ユリアネジ×2)
- ② 燃焼器取付台よりバーナー取付台をはずす。(M8ナット×4)



#### — 掃除箇所 —

- ① エレクトロード……先端部のカーボン(すす)とホコリ
- ② ドラフトチューブ内面のカーボン(すす)とホコリ
- ③ スタビライザーのカーボン(すす)とホコリ
- ④ ノズルの洗浄
- ⑤ 炎センサー(フレイムアイ)……先端のよごれ  
炎センサーを抜いて掃除する。
- ⑥ バーナーファン……ホコリ(特に羽根の内側)

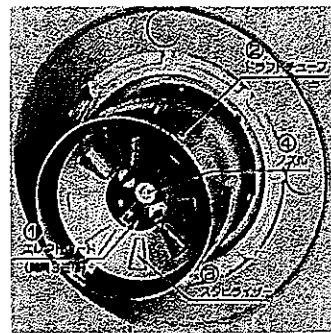
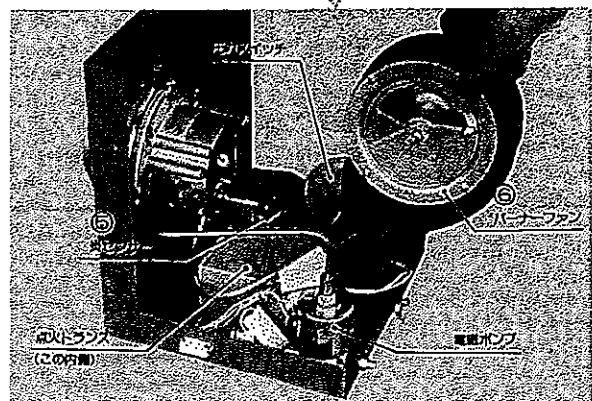


写真-1

- 組立は分解の逆手順で行います。
- 部品は、必ず純正部品をお使いください。



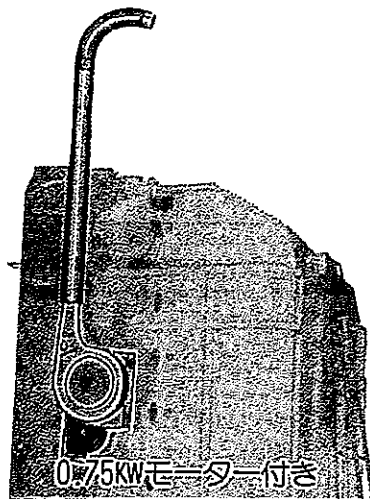
# 11. 便利な別売部品(オプション)

## ■排出スロワー(HH-60)

乾燥の終了した紐(表)を遠方の貯蔵庫や2階の貯蔵庫に排出する場合にお使いください。

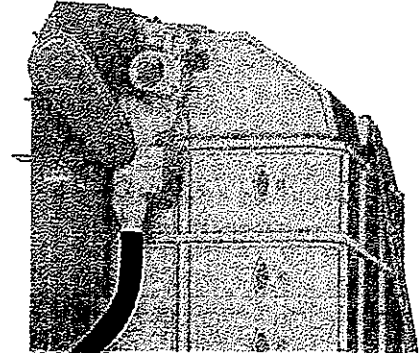
スロワー本体より6.5mの高さまで揚殺できます。

(ただし垂直の場合)



## ■連結ホース(塩化ビニール製)

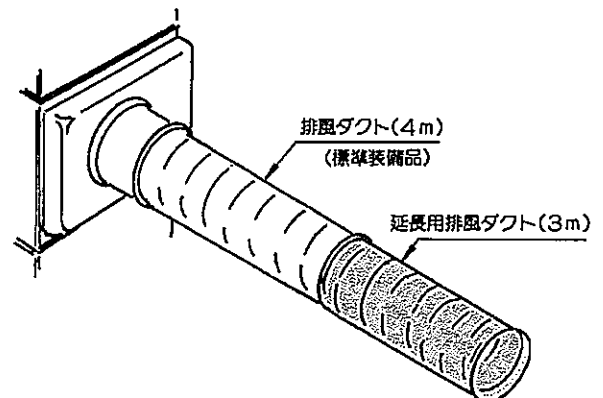
スロワーを使用せずに、昇降機から直接排出する場合に連結ホースを使用すると排出角度を自由に変えることができます。



## ■延長用排風ダクト

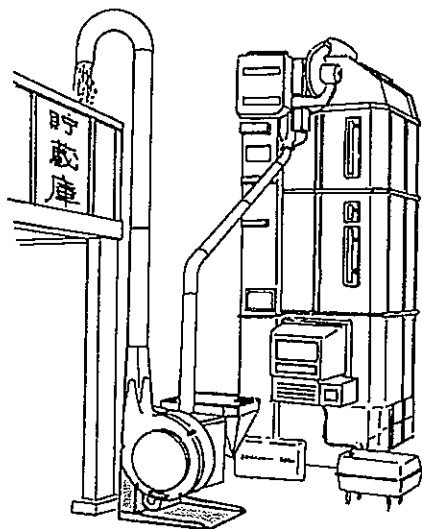
排風ダクトの延長にお使いください。

(ダクトはできるだけ曲げないようにしてください。)



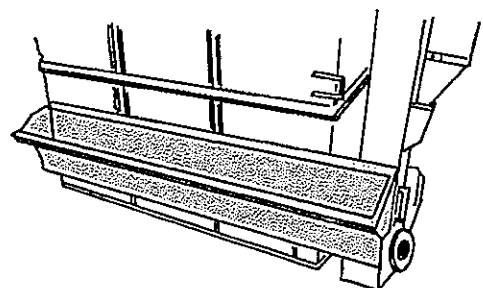
## ■スロワー床置台(UU-65)

地上にスロワーを置く場合にお使いください。



## ■横張込ホッパー(YY-30)

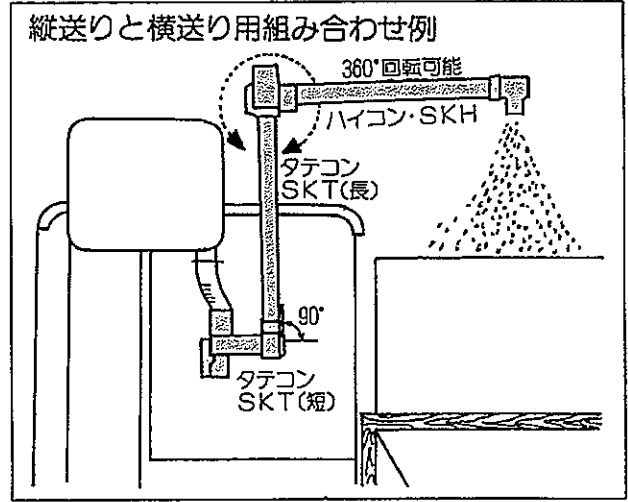
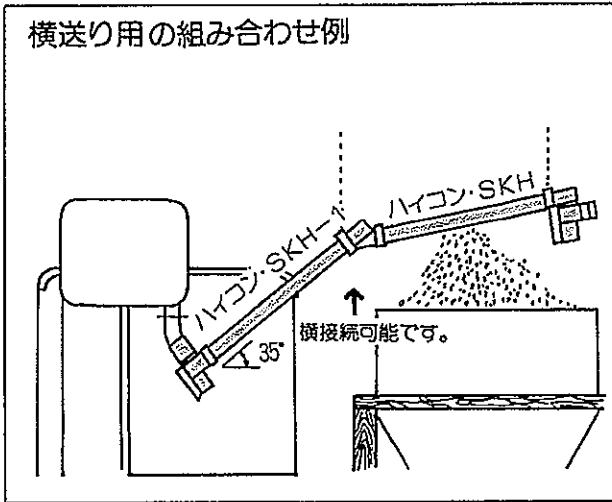
横から張り込む大型ホッパーです。





■はんそう機

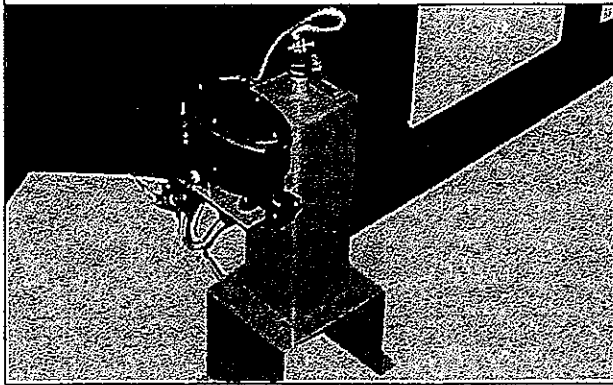
縦にも横にも糸を傷めずに送ることができます。  
乾燥機とセットでお使いください。



※納舎に合った各種の組み合わせができますので、乾燥機のご購入先にお問合わせください。

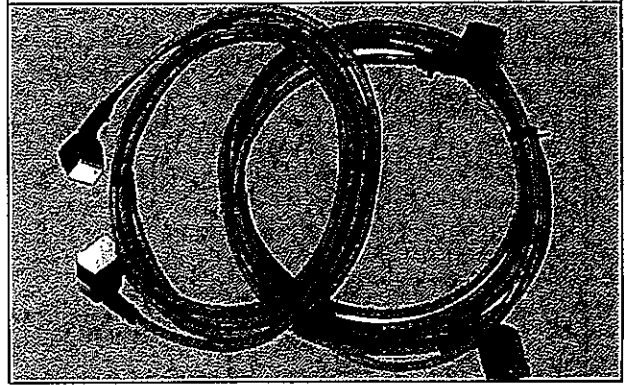
■自動給油装置 (HL-20)

標準タンク以外から配管する場合は必ず乾燥機1台につき1台ずつお使いください。

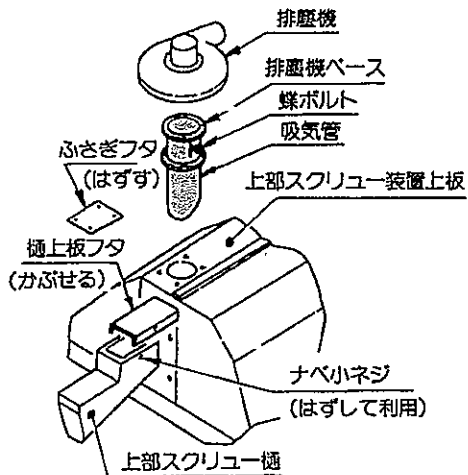


■昇降機後部取付コード (EC-K5)

昇降機を後に組み付ける時に使います。

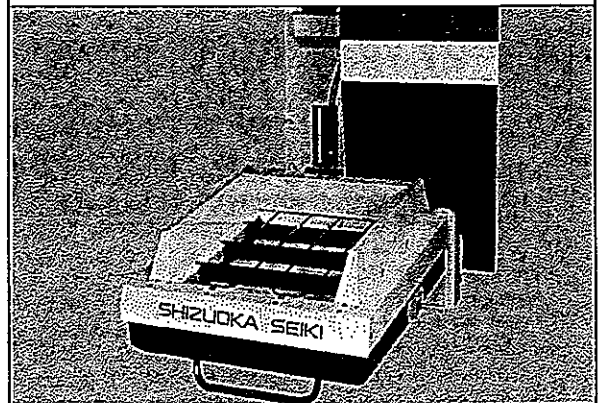


■排塵機屋根取付部品



■前張込装置 (FF-60S)

床上30cmと低いので糸袋を持ち上げずに張り込むことができます。



# 12.故障と対策

●サービスマンを呼ぶ前にまずご自分で点検してください。

○・Kシグナルが点灯する場合

○・Kシグナル点灯	原因	対策	ページ・図
タイマー	タイマーで自動停止した。	運転の終了で異常ではありません。	
	タイマーを入れてない。	タイマーのツマミを右へまわしてください。	P-10 図-10
搬送モーター (ブザー鳴る)	搬送モーターのサーマルリレー(OL-2)が作動した。	下部スクリュー、昇降機等のつまり、ワラくず、Vベルトの張りすぎ等を調べて調整し、サーマル復帰レバーを押してください。	P-29 図-40-2・4
循環モーター (ブザー鳴る)	循環モーターのサーマルリレー(OL-3)が作動した。	チェーンの張りすぎ、ロータリーバルブの異物かみ込み等を調べて調整し、サーマル復帰レバーを押してください。	P-29 図-40-2・4
送風機モーター (ブザー鳴る)	送風機(吸引)モーターのサーマルリレー(OL-1)が作動した。	送風機内の異物、ホコリ、ワラくず等を取りのぞき、送風機(吸引)が手で軽く回ることを確認してからサーマル復帰レバーを押してください。	P-29 図-40-2・4
電源ヒューズ (ブザー鳴らず)	電源ヒューズが切れた。	電源トランス、サージアブソーバー、コントロール基板、水分計モーター等を点検し不良部品を交換してからF1ヒューズ(3A, 250V)を交換してください。	P-29 図-40-5
100Vヒューズ (ブザー鳴らず)	100Vヒューズが切れた。	電磁開閉器、電磁ポンプ、タイマー等の各コイルのショートの有無を確認し、不良部品を交換してからF2ヒューズ(2A, 125V)を交換してください。	P-29 図-40-5
サーモスタット (ブザー鳴る)	サーモスタットが作動した。	過熱状態となった原因を調べ、自然放冷してください。	P-29 図-40-1
バーナーファン (ブザー鳴る)	圧力スイッチが作動した。	バーナーファンが不良の場合は部品交換してください。	P-21 写真-1
炎センサー (ブザー鳴る)	失火した。	1. 燃料切れを確認してください。(燃料タンク) 2. 点火不調の場合は27ページの“点火しない”の項を参照してください。 3. 乾燥途中で火が消える場合は、27ページの“乾燥途中で火が消える”の項を参照してください。	P-3  P-27
	風圧スイッチが作動した。	●モーターの回転が逆ではないか確認してください。	P-7
		●送風機が回転しているか確認してください。(コネクタ抜け、コードの断線、モーターの故障など) ●送風機にネズミ防止フタがついていないか確認してください。 ●排風ダクトが無理に曲げたり、押えられたりしていないか確認してください。	P-17 図-25  P-5 図-6
糞つまりセンサー (ブザー鳴る)	糞つまりセンサーが働いた。	昇降機下部の糞(表)を取りのぞき、Vベルトの張りを調整し、バケットの摩耗を調べてください。図-31	P-17 図-25 P-18 図-31

(注)ヒューズ関係の○・Kシグナル点灯の場合、ヒューズホルダーとヒューズの接触不良が考えられます。その場合は、一旦、ヒューズをはずし、ホルダー間隔をせまくしてからヒューズを入れなおしてください。コネクタぬけや断線、接触不良の場合でも、回路はセンサー作動として受けつけますので各部の点検をしてください。

乾燥機デジタル表示が **H** **L** **HH** となる場合

デジタル表示	0・Kシグナル 熱風温度センサー	ブザー	理由又は状況	確認方法と処理
L の連続	点灯しない	鳴らない	熱風温度が0℃以下になったとき L と表示する。	設定温度を40℃程度に設定して運 転してください。5分程度で設定 温度になれば正常。 デジタル表示が L 又は H のま まのときは熱風温度センサー又は 回路基板の故障。
H の連続			熱風温度が71℃以上になったとき H と表示する。	
L の点滅	点灯する	鳴る	熱風温度センサーが断線状態(200 KΩ以上)となり、温度制御ができ ない。	●熱風温度センサーの故障。 抵抗値をテスターで確認する。 ●回路基板の故障。
H の点滅			熱風温度センサーが、ショート状 態(4KΩ以下)となり、温度制御 ができない。	
HH の点滅	点灯しない	鳴る	設定温度に対し、5℃以上高い状 態が5分間続いたとき、異常高温 と判断して、燃料停止となる。	●熱風温度センサーの故障。 抵抗値をテスターで確認する。 ●回路基板の故障。
			設定温度が外気温度より5℃以上 低く設定されたとき、異常となり 着火しない。	

サービスをされる方へ  
電気・電子部品取扱い上の注意点

- 1.きれいな手で部品を取り扱ってください。水  
や油、ホコリが付着しますとショート、漏電、  
接触不良、腐蝕等により部品不良が発生する  
場合があります。
- 2.部品をていねいに取扱ってください。投げた  
り落としたりしますと、部品の損傷・破壊に  
つながります。
- 3.コントロールボードを取り扱う際には、直接 I  
Cのピンに手でふれないでください。静電気  
により ICが破壊され思わぬトラブルになる  
ことがあります。
- 4.コントロールボードに、みだりにテスター棒  
を当てないでください。素子によっては、電  
氣的に破壊されるものもあります。
- 5.制御系のチェックをする場合には、特に必要  
でない限り電源を切ってください。  
通電中にコネクタの抜き差しを行いますと  
トラブルにつながる場合があります。



●乾燥作業で問題になることが発生しても容易に対策できることが多くあります。

●サービスマンを呼ぶ前にまずご自分で点検してください。

### ■電気・モーターに関すること

故障のようす	原因	対策	ページ・図
感電する。	1.アースがとってない。 (切れている)	アースをしっかりとってください。 元電源のアース線を確認してください。	P-4 図-2
	2.誤配線	元電源(柱、壁)の配線を確認してください。	
タイマーを入れても運転ができない。	コメット-Sで停止したままになっている。	コメット-Sのスイッチを一度切ってから運転してください。	P-12 図-4
搬送モーターがまわらない。	1.サーマルリレーが働いている。 (復帰ボタンが出ている)	サーマルリレーの働いた原因を取り除いてから復帰ボタンを押してください。(OL-2)	P-29 図-40-2・4
	2.モーターの欠相運転。	電源ランプを確認。結線および電源ヒューズが切れていないか確認してください。	P-4 (1)-②
	3.モーター不良。	確認のうえ、不良ならば交換してください。	P-29 図-40-1
	4.スイッチの接触不良。	点検後、接触をよくしてください。	
	5.電圧降下。	電力会社へ連絡してください。 180V以下 使用不能	
	6.糸づまりセンサーが働いている。	働いた原因を取り除いてください。つまった糸(表)を取り除いてください。	P-29 図-40-1
	7.糸づまりセンサーコードが抜けている。又は途中で切れている。	コネクターをしっかりと差し込む、又はコードの損傷を直してください。	P-29 図-40-1
送風機モーターがまわらない。	1.サーマルリレーが働いている。	サーマルリレーの働いた原因を取り除いてから復帰ボタンを押してください。(OL-1)	P-29 図-40-2・4
	2.モーター不良。	確認のうえ、不良ならば交換してください。	P-29 図-40-1
循環モーターがまわらない。	1.サーマルリレーが働いている。 (復帰ボタンが出ている)	サーマルリレーの働いた原因を取り除いてから復帰ボタンを押してください。(OL-3)	P-29 図-40-2・4
	2.モーター不良。	確認のうえ、不良ならば交換してください。	
張り込み中、または乾燥中に昇降機がつまる。	1.昇降機平ベルトのゆるみ。	調整してください。	P-20 図-37
	2.昇降機駆動ベルトのゆるみ。	調整してください。(LA-51)	P-19
	3.下部スクリュー駆動Vベルトのゆるみ。	調整してください。(LA-38、LA-39)	P-19
	4.循環中バルブからの落下量が多すぎる。	ご購入先で点検、調整をしてもらってください。	
	5.バケットがとれている。	とれているところは付け直し、ゆるんだボルト・ナットはしっかりと締めてください。	
	6.バケットが摩耗して揚穀能力が低下している。	バケットの交換をしてください。	P-18 図-31

## ■バーナー(熱風器)に関すること

故障のようす	原因	対策	ページ・図
点火しない。	1. 燃料切れ。	燃料タンクを確認してください。	P-4④
	2. フィルターのつまり。 継手のゆるみ。	フィルターのつまり、送油パイプのネジのゆるみ等を確認してください。	P-21 図-38 P-14 図-13
	3. 点火スパークがとんでいない。	点火トランスのコネクターの確認。 エレクトロードの掃除および間隔(電極間3mm)を点検してください。	P-21 図-39 写真-1
	4. 点火トランスの不良。	点火トランスを交換してください。	
	5. 電磁ポンプの不良。	電磁ポンプを交換してください。	
乾燥途中で火が消える。	1. 燃料切れ。	燃料タンクを確認してください。	P-4
	2. 各部コネクターの接触不良。	各部コネクターがしっかり差し込まれているか確認してください。	P-29 図-40-3
	3. フィルターのつまり。 継手のゆるみ。	フィルターのつまり、送油パイプのネジのゆるみ等を確認してください。	P-21 図-38 P-14 図-13
	4. カーボン(すす)付着。	燃焼器、特に炎センサー先端のカーボン(すす)の掃除をしてください。	P-21 図-39 写真-1
電磁ポンプが作動しない。 (振動がない 燃料が流れない)	1. 電磁ポンプの差込プラグの抜け又は抜けかかり。	コネクターにしっかり差し込んでください。	P-21 写真-1
	2. ポンプ自体が振動しない。	ポンプを交換してください。	P-21 写真-1
	3. 電磁ポンプが新品またはしばらく使用していない時にプランジャーがはりついている。	ポンプを軽くたたいてショックをあたえてください。	P-21 写真-1
電氣的故障でない場合の電磁ポンプ吸上不良。 (ポンプに手をふれると振動がある)	1. フィルターが目つまり。	燃料タンクコックを分解し、フィルターを洗浄又は交換してください。	P-21 図-38
	2. パイプの継手がゆるみ空気がはいる。	継手部をしっかり締め付けてください。	P-14 図-13
	3. パイプ内部に空気がたまっている。	エア抜きをしてください。	P-4 図-4

## ■乾燥に関すること

故障のようす	原因	対策	ページ・図
乾燥時間が長くなりすぎる。	1. 熱風温度が低すぎる。	地域の一般的な使用温度と比較して低すぎたら高くしてください。	P-11 表-1
	2. 排気の戻り。	排風ダクトは確実に屋外に出してください。	P-5 図-5・6
	3. 夜間湿った空気を吸いすぎている。	湿度の高い夜間運転は早目に打ち切り、翌日仕上げるようにしてください。	P-11 注1
	4. 送風機(吸引)の回転が落ちている。	電圧低下の場合は、電力会社へ連絡してください。(180V以下使用不能)	
	5. 乾燥前の水分が高すぎる。	適期刈取りを励行してください。	
	6. 排風ダクトの抵抗が大きく風量が低下している。	排風ダクトを曲げずにピンと張ってください。	P-5 図-6
ムラ乾燥になる。	1. 籾の水分が高すぎて乾燥機の内面にはりつく。	少量で乾燥してください。容量表示窓1~2の範囲。	P-9 注意
	2. フラくず、ゴミ等が多過ぎ乾燥部がつまる。	フラくず、ゴミ等を取り除いてください。(乾燥機内部に入って調べる)	P-16 図-20
	3. 何らかの原因でバルブがまわらない。	原因を調べて調整してください。異物のかみ込みがないか。(機械内部を調べる)	P-20 図-36
	4. 乾燥前の籾(麦)の水分差が大きい。	初期水分に3~5%以上も差があるときは別々に乾燥してください。また、水分の高いものは低いものと同じ水分になるまで乾かしてから一緒にしてください。(二段乾燥使用)	別冊 (自動水分計 取扱説明書)
	5. 枝梗付の籾(麦)が多い。	選別してから張り込んでください。	
過乾燥になる。	1. 水分ムラの多い籾(麦)。	水分差の極端に多いとき(3~5%以上の差)は分けて乾燥してください。	別冊 (自動水分計 取扱説明書)
	2. 未熟粒・青米が多い籾(麦)。		
水分過多になる。	1. 水分ムラの多い籾。	水分差の極端に多いときは分けて乾燥してください。二段乾燥してください。	別冊 (自動水分計 取扱説明書)
	2. 未熟米が多く、乾燥後水分が戻った。	乾燥後の貯蔵を長期間しないでください。二段乾燥してください。	
	3. フラくず等が多く循環不良を起している。	フラくず等を取り除いて張り込んでください。	
水分が合わない。	1. 穀物特性による差。	コメントパックで調べて差が認められたら水分目盛の調整をします。	別冊 (自動水分計 取扱説明書)
	2. 検査の水分計と合っていない。	水分目盛の調整をしてください。	
胴割米 碎米 } が多い。	1. 乾燥の前に脱ぶ(皮のむけた米)、半脱ぶが多い。	刈り取り時期と脱穀機の回転に注意し、半脱ぶ米はなるべく低温でゆっくり乾燥してください。	
	2. 熱風温度が高すぎる。	張込量と熱風温度に注意してください。	P-11 表-1
	3. 乾燥後の処理が悪い。	乾燥終了後急に冷したり、湿気を当てることはさけてください。	
	4. 過乾燥。	乾燥中に時々水分を測定してください。タイマーと自動水分計のセットを間違わないようにしてください。	P-10・11
	5. 循環不良。	点検し、調整してください。	
	6. スクリュー軸が振れ樋に当る。	樋がへこんでいないか確かめてください。回転数が正常か、ブローが規定のものが使用されているか確認してください。	P-19 図-34
	7. 少量の籾を長時間乾燥した。	最低1,000kg以上で乾燥してください。	P-8 (1) 図
	8. 収穫時期が遅れた籾。	ゆっくり乾燥してください。	P-11 注1

# 13. 各部の接続と定格

モーターとセンサー類の接続図  
(昇降機前へ付けた場合)

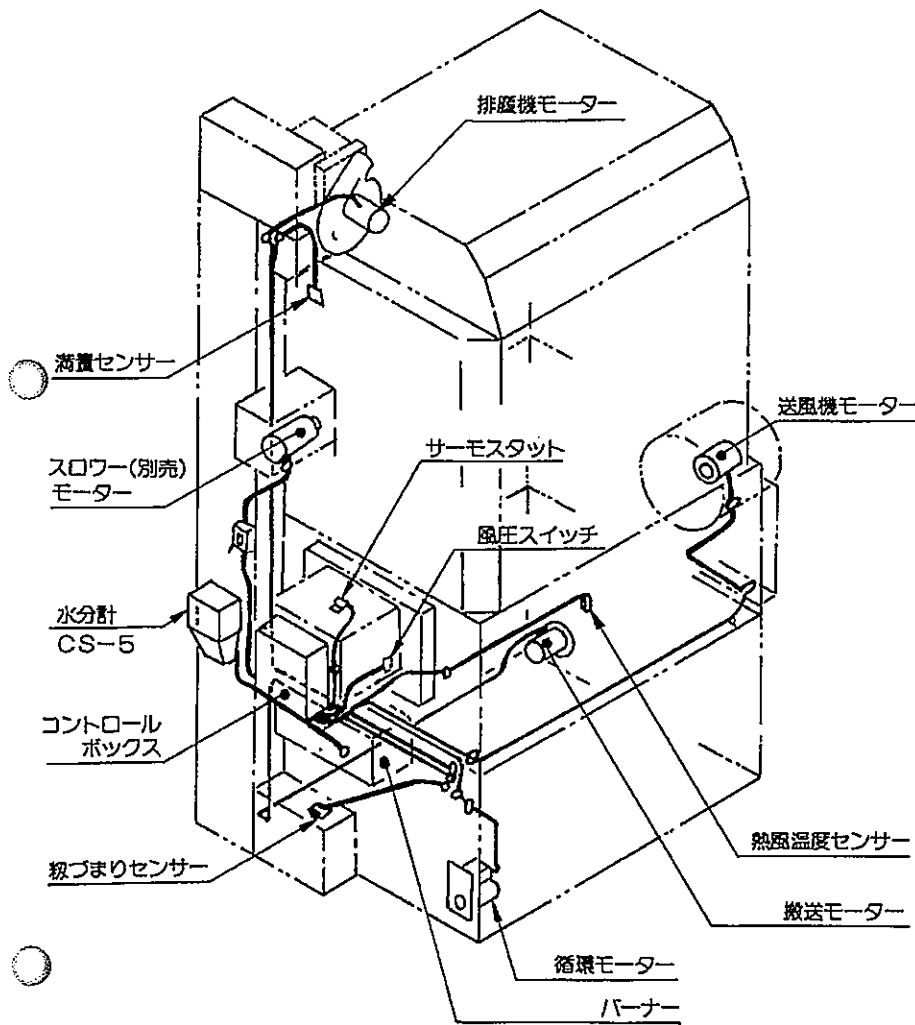
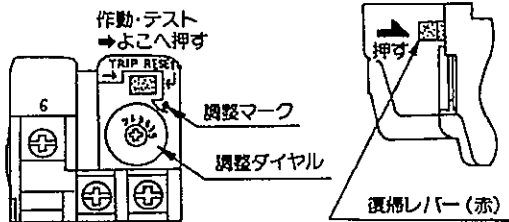


図-40-2

※サーマルリレーの復帰



※サーマルリレーの復帰、ヒューズ交換の時は、  
前面カバーをはずしてください。

図-40-1

コントロールボックス 図-40-3

底部コネクター配置

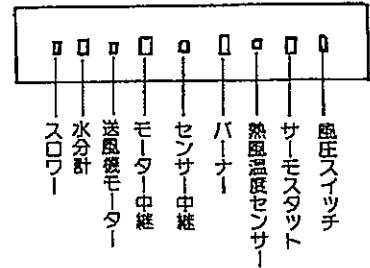


図-40-4

サーマルリレーの電流設定値

サーマルリレー	OL-1 (送風機)	OL-2 (搬送)	OL-3 (循環)
設定値(A)	3.9	5.0	1.25

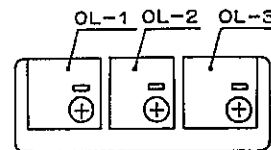
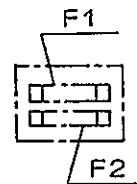


図-40-5

ヒューズ定格

記号	ヒューズ名称	定格
F1	電源ヒューズ	3A・250V
F2	100Vヒューズ	2A・125V



負荷定格 表-1

負荷名称	定格 (kW)	張込	乾燥	排出
送風機モーター	0.65	×	○	×
搬送モーター	0.65	○	○	○
循環モーター	0.12	×	○	○
排塵機モーター	0.14	○	○	○
その他コントロール	0.10	○	○	○
水分計 CS-5	0.045	×	○	×
排出スロワーモーター	0.75	×	×	□
合計 (kW)		0.89	1.705	1.76

○: 運転 ×: 停止 □: 別売部品

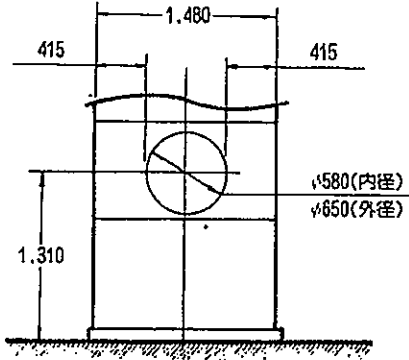
# 14. 据付寸法図

《注》据付けは周囲1 m位開けてください。

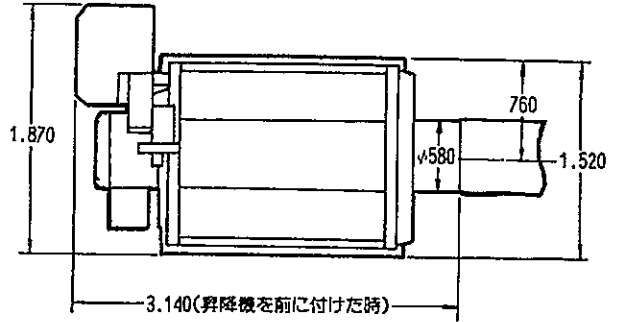
図-41

単位=mm

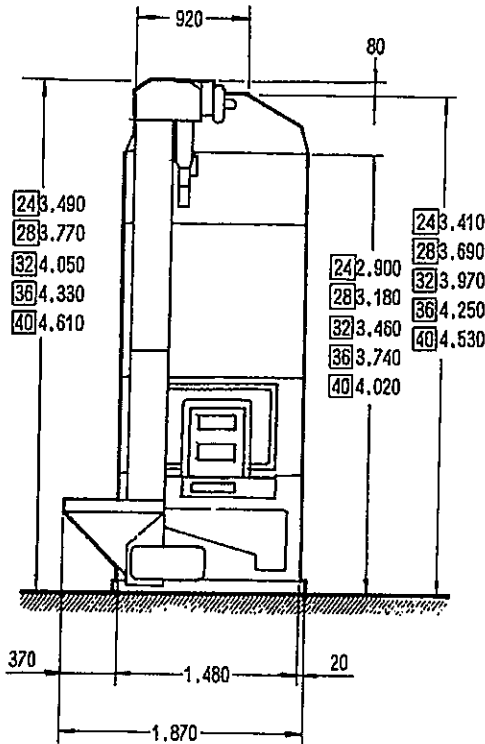
《後から見た所》



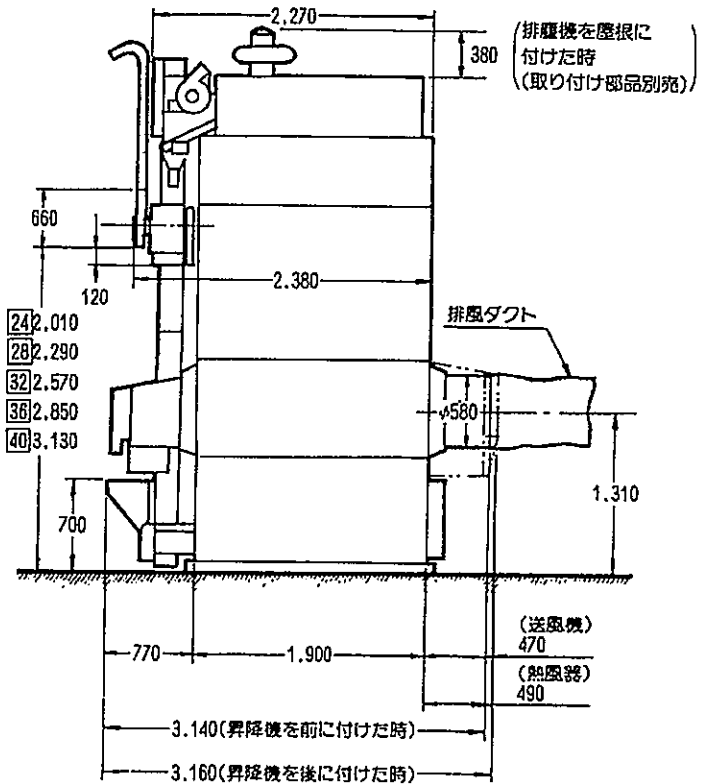
《上から見た所》



《前から見た所》



《横から見た所》



※ 昇降機は前・後どちらにも付きませんが図は昇降機を前に付けた場合です。



# ■修理履歴控

サービスをされる方へ  
点検や修理の都度記入してください。

月日	内 容	所要時間	実施者名	確認印

# ■有料点検履歴控

月日	内 容	所要時間	実施者名	確認印

# フロントパネル操作盤

### タイマー

### 作業選択

乾燥

排出(髪)

運転

### 温度設定

## 40 °C

熱風温度

### 電源ランプ

運転操作		タイマーを停止にする	
張込	タイマーを回す 「張込」にする 「運転ボタン」を押す 乾燥	タイマーを回す 「排出」にする 「運転ボタン」を押す 乾燥	タイマーを押し止める 「停止」
乾燥	タイマーを回す 「乾燥」にする 「運転ボタン」を押す 乾燥	タイマーを回す 「排出」にする 「運転ボタン」を押す 乾燥	タイマーを押し止める 「停止」
排出	タイマーを回す 「排出」にする 「運転ボタン」を押す 乾燥	タイマーを回す 「排出」にする 「運転ボタン」を押す 乾燥	タイマーを押し止める 「停止」

タイマー

送風機

送風機

循環機

サーモスタット

電源ヒューズ

100Vヒューズ

パーチーラカン

炎センサー

風圧センサー

取っ手のセンサー

OKボタン

※この取扱説明書の仕様は、改良のため予告なく変更する事があります。その場合、内容が多少異なることがありますのでご留意ください。